

IBM

@server

iSeries

Managed System Services for iSeries コマンド

バージョン 5 リリース 3





@server

iSeries

Managed System Services for iSeries コマンド

バージョン 5 リリース 3

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、115 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、Managed System Services for iSeries (プロダクト番号 5722-MG1) のバージョン 5、リリース 3、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： iSeries
Managed System Services for iSeries Commands
Version 5 Release 3

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.5

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

CCサーバー・クライアント追加 (ADDCCSCLT)	1	管理機能サービスの終了 (ENDMGRSRV)	79
DSTカタログ項目の追加 (ADDDSTCLGE)	15	導入可能オブジェクトのパッケージ (PKGINSOBJ)	81
CCサーバー属性の変更 (CHGCCSA)	31	DST用パッケージ・プロダクト (PKGPRDDST)	91
管理対象システムの属性の変更 (CHGMGDSYSA)	41	CCサーバー・クライアント除去 (RMVCCSCLT)	97
管理機能サービス属性の変更 (CHGMGRSRVA)	47	DSTカタログ項目の除去 (RMVDSTCLGE)	99
DST リポジトリ・オブジェクト・コピー (CPYDSTRPSO)	51	分散管理の開始 (STRMGDSYS)	103
CCサーバー属性の表示 (DSPCCSA)	63	管理機能サービスの開始 (STRMGRSRV)	105
DSTカタログ項目の表示 (DSPDSTCLGE)	65	DSTカタログ項目の処理 (WRKDSTCLGE)	107
管理対象システムの属性表示 (DSPMGDSYSA)	71	受信したCRQ活動の処理 (WRKRCVCRQA)	111
受信コマンドの表示 (DSPRCVCMD)	73	付録. 特記事項	115
分散管理の終了 (ENDMGDSYS)	75		

CCサーバー・クライアント追加 (ADDCCSCLT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

変更制御サーバー・クライアント追加(ADDCCSCLT)コマンドによって、ユーザーは変更制御クライアントを変更制御サーバーが認識するよう定義することができます。少なくとも最初の変更制御クライアントを変更制御サーバーに定義するためには、このコマンドを使用する必要があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLIENT	クライアント	文字値	必須, 定位置 1
CPNAME	制御点名	文字値	必須, 定位置 2
CLTMODE	クライアント・モード	*FOCAL, *PULL, *PUSH , *MANAGER, *NOMODE	オプション
CLTTYPER	クライアント・タイプ	*CLIENT , *SERVER, *SINGLE, *UI	オプション
SVRNAME	サーバー名	文字値, *DFT	オプション
DMNID	ドメインID	文字値, *SVRCPNAME	オプション
OPSYSTYPE	オペレーティング・システム・タイプ	*AIX, *DOS, *HPUX, *IRIX, *MAC, *MVS, *NCR, *NETWARE, *OS2 , *OS400, *SCO, *SINIX, *SOLARIS, *SUNOS, *WINDOWS, *WINDOWSNT, *WINDOWS95, *OS/2	オプション
TEXT	テキスト	文字値, *NONE	オプション
CCPERIOD	変更制御期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻	時刻, *FIRST	
	要素 2: 終了時刻	時刻, *LAST	
DSTPERIOD	配布期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻	時刻, *FIRST	
	要素 2: 終了時刻	時刻, *LAST	
MSGLOGLVL	メッセージ・ログ・レベル	*NORM , *MIN, *DIAG	オプション
CUSTOMER	顧客	文字値, *NONE	オプション
CONTACT	連絡先	文字値, *NONE	オプション
ADDRESS	アドレス	文字値, *NONE	オプション
MANAGER	管理者	文字値, *NONE	オプション
PHONE	電話	文字値, *NONE	オプション
PASSWORD	パスワード	単純名, *CPNAME	オプション
ACCKEY	アクセス・キー	文字値, *NONE	オプション
HDWPARM	ハードウェア・パラメーター	単一値: *NONE その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: パラメーター	文字値	
	要素 2: 値	文字値	

キーワード	記述	選択項目	注
INSTKN	導入トークン	単一値: *NONE その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: トークン	文字値	
	要素 2: 値	文字値	
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション名	要素リスト	オプション
	要素 1: クライアント・アドレス	文字値, *CLIENT , *CPNAME	
	要素 2: アドレス・タイプ	*IP , *SNA	
MODE	モード名	通信名, *NETATR	オプション

トップ

クライアント (CLIENT)

追加する変更制御クライアントの名前を指定します。

クライアント名

最大63桁までのクライアントの名前を指定してください。有効なクライアント名は、大文字のA - Z,数字の0 - 9,および特殊文字の単価記号(@),円記号(¥),および番号記号(#)で構成されます。

アスタリスク(*),疑問符(?),およびスラッシュ(/)文字は使用できません。

トップ

制御点名 (CPNAME)

追加中の変更制御クライアントのAPPN制御点名を指定します。この値は、SNA配布サービス・アドレスの制御点部分です。NETVIEW/DMはこのフィールドをターゲット・アドレスとして参照します。

制御点名

追加するクライアントのAPPN制御点の名前を指定してください。このフィールドには最大8桁を使用することができます。英字および数字の両方を使用することができます。埋め込みブランクを使用することはできません。小文字を指定すると、システムはそれらを変更して大文字として記憶します。

トップ

クライアント・モード (CLTMODE)

変更制御クライアントを構成するモードを指定します。

*PUSH

変更制御クライアントがプッシュ・モードで構成されます。プッシュ・モードで構成された変更制御クライアント上での変更制御および配布操作は、ネットワーク中の変更制御サーバーから制御されます。プッシュ・モード変更制御クライアントは、そこで実行中の操作に介入することはできません。このモードは、クライアント・タイプ・パラメーターの値が***CLIENT**, ***SERVER**,または***SINGLE** である時に使用することができます。

*FOCAL

変更制御クライアントがフォーカル・ポイントとして構成されます。このモードで構成された変更制御クライアントは、自身はそのフォーカル・ポイントとして定義されている変更制御クライアントから変更制御報告書を受け取ります。報告書は、操作がネットワーク中の別の変更制御クライアントから開始されていても、そのフォーカル・ポイントに経路指定されます。フォーカル・ポイントは、マネージャーと見なすことができます。リモート変更制御クライアントから、フォーカル・ポイント上で変更制御操作を実行することはできません。

この値が使用できるのは、CLTTYPERパラメーターの値が*SERVERまたは*SINGLEの時だけです。変更制御クライアントがフォーカル・ポイントとして構成されている時には、これはリモート変更制御クライアントとして認識されます。1つのクライアントだけがフォーカル・ポイントとして識別されます。

***PULL** 変更制御クライアントがプル・モードで構成されます。プル・モード変更制御クライアント上での変更制御操作は、変更制御クライアント自身またはネットワーク中の変更制御サーバーのいずれかから制御することができます。このモードは、CLTTYPERパラメーターの値が*CLIENT, *SERVER, または*SINGLEである時に使用できます。

*MANAGER

変更制御クライアントがマネージャーとして構成されます。マネージャー・モードで構成された変更制御クライアントは、そのドメイン内の任意の変更制御クライアントに対する変更制御操作を実行することができます。またこれは、自身はそのマネージャーとして定義されている変更制御クライアントから変更制御報告書を受け取ります。このモードは、クライアント・タイプ(CLTTYPER)パラメーターの値が*SERVERまたは*SINGLEである時に使用することができます。変更制御クライアントがマネージャーとして構成されている時には、これはリモート変更制御クライアントとして認識されます。

*NOMODE

変更制御クライアントはユーザー・インターフェース専用です。クライアント・タイプ(CLTTYPER)パラメーターの値が*UI (ユーザー・インターフェース) である時には、このモードを使用しなければなりません。

[トップ](#)

クライアント・タイプ (CLTTYPER)

定義するクライアントのタイプ。

*CLIENT

変更制御クライアントがクライアント・タイプとして構成されます。変更制御クライアントは、変更制御サーバーと一緒に稼働していて、ソフトウェア配布クライアント・プロダクトが導入済みの時には、クライアント・タイプになります。すべてのローカルまたはリモート変更制御クライアントを構成する必要があります。リモート変更制御クライアントがファイルまたは変更制御要求を送受信する場合には、これらを構成しなければなりません。ユーザーのシステム上にリモート管理プロダクト・オプションが導入されている場合には、リモート変更制御クライアント上で変更制御操作を実行することができます。そこから分散ファイルまたは変更制御コマンドを受け取るために、リモート変更制御クライアントを構成する必要はありません。1つの変更制御サーバーごとに最大2024個のローカル変更制御クライアントを定義することができます。この値が使用できるのは、CLTMODE(*PUSH)またはCLTMODE(*PULL)が指定されている時だけです。

*SERVER

変更制御クライアントがサーバー・タイプとして構成されます。ソフトウェア配布サーバー・オブ

ションが導入されている変更制御クライアントはサーバーとして構成されます。ソフトウェア配布カタログは、変更制御サーバーに入っていて、変更制御ドメインに対する変更制御および配布操作はそこから開始されます。変更制御サーバーは、リモート管理プロダクト・オプションが導入されていれば、リモート変更制御クライアントに対して変更制御操作を開始することができます。この値は、CLTMODE(*PUSH), CLTMODE(*PULL), CLTMODE(*MANAGER),および CLTMODE(*FOCAL)の場合に有効です。

*SINGLE

変更制御クライアントが単一ノード・タイプとして構成されます。基本システムとして構成され、ソフトウェア配布を実行する変更制御クライアントは、単一ノード変更制御クライアントとして構成することができます。単一ノード変更制御クライアントは、ソフトウェアの準備サイトとして、あるいは変更制御操作の報告書を受け取るフォーカル・ポイントとして使用することができます。MVSノードのNETVIEW/DMは単一ノード変更制御クライアントとして定義する必要があります。この値は、CLTMODE(*PUSH), CLTMODE(*PULL), CLTMODE(*MANAGER),および CLTMODE(*FOCAL)の場合に有効です。

*UI

変更制御クライアントがユーザー・インターフェース・タイプとして構成されます。これらの変更制御クライアントは、ソフトウェア配布ユーザー・インターフェースを実行するために使用できるだけです。この種の変更制御クライアントは、複数の変更制御サーバーをもった環境で役立ちます。これによって、管理担当者は、同じ変更制御クライアントからすべての変更制御サーバーにアクセスし、管理用タスクを実行したり、あるいは変更制御クライアントに対する配布をスケジューリングすることができます。ユーザー・インターフェース変更制御クライアントとして構成されたワークステーションは、他の変更制御クライアント上で変更制御を開始したり、あるいは変更制御サーバーとの間で配布を要求するために使用されます。ユーザー・インターフェース変更制御クライアントは、それに対して自身がユーザー・インターフェース変更制御クライアントとして定義されている変更制御サーバーから変更制御命令を受け取ることはできません。この値は、CLTMODE(*NOMODE)が指定されている時に有効です。

[トップ](#)

サーバー名 (SVRNAME)

リモート変更制御クライアントが接続されている変更制御サーバーの名前を指定します。このパラメーターは、変更制御クライアントがリモートの場合、あるいはCLTTYPER(*CLIENT)が指定されている場合には必要です。

***DFT** 変更制御クライアントが物理的に接続されている変更制御サーバーの名前。

サーバー名

変更制御クライアントが接続されている変更制御サーバーの名前。指定した名前がローカル・サーバーの名前と異なる場合には、クライアントはリモート・クライアントとして構成されます。

サーバー名は最大63桁とすることができます。有効なサーバー名は、大文字のA - Z,数字の0 - 9, および特殊文字の単価記号(@),円記号(¥),および番号記号(#) で構成されます。アスタリスク(*),疑問符(?),およびスラッシュ(/)は使用できません。

[トップ](#)

ドメインID (DMNID)

追加中の変更制御クライアントの変更制御サーバー・ドメインIDを指定します。このパラメーターは、CLTTYPER(*UI)が指定されていて変更制御クライアントがリモートの場合、または変更制御クライアントがローカルの場合には正しくありません。CLTMODE(*MANAGER)またはCLTMODE(*FOCAL)が指定されている場合には、このパラメーターが必要です。

*SVRCPNAME

クライアントの制御点名。CLTTYPER(*CLIENT)が指定されている場合には、ドメイン識別名は、変更制御クライアントが接続されている変更制御サーバーの制御点名に設定されます。

CLTTYPER(*SERVER)またはCLTTYPER(*SINGLE)が指定されている場合には、ドメイン識別名は制御点名(CPNAME)パラメーターに指定された値に設定されます。

ドメイン識別名

追加中の変更制御クライアントの変更制御サーバー・ドメインIDを指定します。ドメイン識別名は最大8桁とすることができます。有効なドメイン識別名は、大文字のA - Z,数字の0 - 9,および特殊文字の単価記号(@),円記号(¥),および番号記号(#)で構成されます。

トップ

オペレーティング・システム・タイプ (OPSTYPE)

定義するクライアントのオペレーティング・システムのタイプを定義します。ヘルプ・テキスト内にリストされている製品や名前の一部は、他社の商標やサービス・マークであることがあります。

***OS2** NETVIEW配布管理機能/2を実行中のクライアント。

***AIX** NETVIEW配布管理機能エージェント/6000を実行中のクライアント。

***DOS** NETVIEW配布管理機能エージェント(DOS版) を実行中のクライアント。

*HPUX

NETVIEW配布管理機能(HP-UX版, HEWLETT-PACKARD社の商標)を実行するクライアント。

***IRIX** NETVIEW配布管理機能エージェント(IRIX版) を実行するクライアント。

***MAC** NETVIEW配布管理機能エージェント(MACINTOSH版) を実行中のクライアント。
MACINTOSHはAPPLE COMPUTER, INCORPORATEDの商標です。

***MVS** NETVIEW配布管理機能エージェント(MVS版) を実行するクライアント。

***NCR** NETVIEW配布管理機能エージェント(NCR版) を実行中のクライアント。NCRとは、AT & T GLOBAL INFORMATION SOLUTIONSの1部門であるNETWORK COMPUTING RESOURCE CORPORATIONのことです。

*NETWARE

NETVIEW配布管理機能エージェント(NETWARE版) を実行するクライアント。

***OS/2** NETVIEW配布管理機能/2を実行中のクライアント。

*OS400

分散管理(AS/400用) を実行するクライアント。

***SCO** NETVIEW配布管理機能エージェント(SANTA CRUZ OPERATIONS (SCO)オペレーティング・システム版) を実行中のクライアント。これはUNIX準拠のシステムです。

***SOLARIS**

NETVIEW配布管理機能エージェント(SUN SOLARIS版) を実行中のクライアント。SUN SOLARISはSUNSOFT製品で、SUN MICROSYSTEMS, INCORPORATEDの商標です。

***SUNOS**

NETVIEW配布管理機能エージェント(SUNOS版) を実行中のクライアント。SUNOSはSUN MICROSYSTEMS, INCORPORATEDの商標です。

***SINIX** NETVIEW配布管理機能エージェント(SINIX版) を実行中のクライアント。SINIXはSIEMENS NIXDORF社の商標です。

***WINDOWS**

NETVIEW配布管理機能エージェント(MICROSOFT WINDOWS版) を実行中のクライアント。WINDOWSはMICROSOFT CORPORATIONの商標です。

***WINDOWS95**

NETVIEW配布管理機能エージェント(WINDOWS 95版) を実行するクライアント。

***WINDOWSNT**

NETVIEW配布管理機能エージェント(WINDOWS NT版) を実行中のクライアント。WINDOWS NTはMICROSOFT CORPORATIONの商標です。

[トップ](#)

テキスト (TEXT)

追加する変更制御クライアントを記述するテキストを指定します。

***NONE**

テキストは指定されません。

記述 最大59桁までのクライアントの記述を指定してください。

[トップ](#)

変更制御期間 (CCPERIOD)

CC要求に割り振られた時間間隔を指定します。このパラメーターは、CLTTYPER(*UI)が指定されている場合には、使用できません。このパラメーターは、変更制御クライアントがリモートの場合には無視されます。次の値を使用することができます。

指定できる開始時刻の値は次の通りです。

***FIRST**

この値は、1日の最初の時間に変更管理操作を開始できるように指定するために使用します。たとえば、使用できる1日の最初の時間は24:01です。

開始時刻

変更制御要求が開始される時刻を指定します。

時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS,ただしHH =時間, MM =分, SS =秒)として指定することができます。秒は任意指定です。時刻は、コロン(:)などの時刻区切り文字を付けて、あるいは付けずに指定することができます。時刻区切り文字を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)で指定します。

指定できる終了時刻の値は次の通りです。

***LAST** この値は、1日の最後の時間に変更管理操作を停止できるように指定するために使用します。たとえば、使用できる1日の最後の時間は23:59です。

停止時刻

変更制御要求が停止される時刻を指定します。

時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS,ただしHH =時間, MM =分, SS =秒)として指定することができます。秒は任意指定です。時刻は、コロン(:)などの時刻区切り文字を付けて、あるいは付けずに指定することができます。時刻区切り文字を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)で指定します。

[トップ](#)

配布期間 (DSTPERIOD)

配布要求に割り振られた時間間隔を指定します。このパラメーターは、CLTTYPE(*UI)が指定されている場合には、使用できません。このパラメーターは、変更制御クライアントがリモートの場合には無視されません。使用できる値は2つです。

指定できる開始時刻の値は次の通りです。

***FIRST**

配布要求を1日の最初の時間に開始することができます。たとえば、使用できる1日の最初の時間は24:01です。

開始時刻

変更制御要求が開始される時刻を指定します。

時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS,ただしHH =時間, MM =分, SS =秒)として指定することができます。秒は任意指定です。時刻は、コロン(:)などの時刻区切り文字を付けて、あるいは付けずに指定することができます。時刻区切り文字を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)で指定します。

指定できる終了時刻の値は次の通りです。

***LAST** 配布要求を1日の最後の時間に開始することができます。たとえば、使用できる1日の最後の時間は23:59です。

終了時刻

配布要求が停止される時刻を指定します。

時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS,ただしHH =時間, MM =分, SS =秒)として指定することができます。秒は任意指定です。時刻は、コロン(:)などの時刻区切り文字を付けて、あるいは付けずに指定することができます。時刻区切り文字を付ける場合には、5桁または8桁のストリング(HH:MMまたはHH:MM:SS)で指定します。

[トップ](#)

メッセージ・ログ・レベル (MSGLOGLVL)

メッセージ・ログ・レベルは、変更制御クライアントが変更制御サーバーへの接続を確立し構成されたレベルを見つける前に、使用する必要があるログ・レベルを定義します。このパラメーターは、変更制御クライアントがリモートの場合には無視されます。

***NORM**

これは省略時のログ・レベルで、変更管理要求の受け入れなどの、主要または通常の事象についてのエラーとメッセージの両方が含まれます。

***MIN** この値は、システムに過剰ログ問題がある場合にだけ選択する必要があります。このレベルの場合には、最小情報量のエラー・ログが作成されます。致命的なエラーは常にログに記録されます。

***DIAG** この値は、問題の解決を助けるためにログの収集が行われる場合にだけ選択する必要があります。この値を指定すると、CCサーバーのプロセスについての詳細な情報が報告されます。

[トップ](#)

顧客 (CUSTOMER)

クライアント・システムの顧客の名前。この名前は、顧客に連絡する必要がある場合に使用されます。

指定できる顧客の値は次の通りです。

***NONE**

顧客名は指定されません。

顧客名 最大59桁までの顧客の名前を指定してください。顧客名はユーザーに適した形式で指定することができます。

[トップ](#)

連絡先 (CONTACT)

変更制御クライアント企業に対するサービス技術員が連絡する担当者の名前を指定します。

指定できる連絡先の値は次の通りです。

***NONE**

連絡先名は指定されません。

顧客名 最大59桁までの連絡先の名前を指定してください。連絡先名はユーザーに適した形式で指定することができます。

[トップ](#)

アドレス (ADDRESS)

変更制御クライアント企業の国または地域、都道府県、市町村、町名番地、および郵便番号を指定します。

***NONE**

アドレスは指定されません。

連絡先アドレス

最大199桁までの指定したクライアントのアドレスを指定してください。連絡先アドレスはユーザーに適した形式で指定することができます。

[トップ](#)

管理者 (MANAGER)

変更制御クライアント企業の管理者である担当者の名前を指定します。

*NONE

所有する管理者は指定されません。

所有管理者

最大59桁までの指定したクライアントの所有する管理者の名前を指定してください。所有管理者はユーザーに適した形式で指定することができます。

[トップ](#)

電話 (PHONE)

変更制御クライアント企業の完全な電話番号を指定します。この電話番号には、サービス技術員がシステム上の問題について担当者に連絡できるよう、市外局番、局番、番号、および内線番号を含める必要があります。

*NONE

電話番号は指定されません。

電話番号

最大31桁までのクライアントの電話番号を指定してください。電話番号はユーザーに適した形式で指定することができます。

[トップ](#)

パスワード (PASSWORD)

このリリースでは、このキーワードを使用することはできません。

[トップ](#)

アクセス・キー (ACCKEY)

クライアント・アクセス・キー(TAK)の値。この値を指定する場合には、アクセス・キー・テーブルにアクセス・キーが存在していて、ユーザーに割り当てられていなければなりません。

指定できるアクセス・キーの値は次の通りです。

*NONE

クライアント・アクセス・キーは指定されません。

アクセス・キー

クライアントに割り当てるアクセス・キーを指定してください。アクセス・キーは4バイトの2進数フィールドです。クライアント・アクセス・キーの例はTAKIです。

[トップ](#)

ハードウェア・パラメーター (HDWPARM)

これは、変更ファイルを導入する時にハードウェアの前提要求の検査に使用されるハードウェア・パラメーターの定義を指定する値です。最大10までのハードウェア・パラメーターを指定することができます。このパラメーターは、CLTTYPER(*UI)が指定されている場合には、使用できません。このパラメーターは、変更制御クライアントがリモートの場合には無視されます。

使用できる単一の値は次の通りです。

*NONE

ハードウェア・パラメーターは指定されません。

指定できるハードウェア・パラメーターは次の通りです。

ハードウェア・パラメーター

最大80桁までのハードウェア・パラメーターを指定してください。

値 最大80桁までのハードウェア・パラメーターの値を指定してください。

[トップ](#)

導入トークン (INSTKN)

これは、変更ファイルを導入する時にクライアントが使用する導入トークンの値です。導入トークンは、ファイルを入れるディレクトリーおよび変更制御クライアントでプロダクトとともに導入されるパスでなければなりません。最大10までの導入トークンを指定することができます。このパラメーターは、CLTTYPER(*UI)が指定されている場合には、使用できません。

使用できる単一の値は次の通りです。

*NONE

導入トークンは指定されません。

指定できる導入トークンは次の通りです。

導入トークン

最大11桁までの導入トークンを指定してください。

指定できる導入トークンの値は次の通りです。

値 最大49桁までの導入トークン・パラメーターの値を指定してください。

[トップ](#)

リモート・ロケーション名 (RMTLOCNAME)

追加するクライアントのアドレスおよびアドレス・タイプを指定します。このパラメーターは、変更制御クライアントがリモートの場合には無視されます。

次の要素を指定することができます。

要素1: クライアント・アドレス

クライアント・アドレスは、インターネット・プロトコル・ホスト名、IPアドレス、またはSNAネットワークIDおよび制御点名とすることができます。

ホスト名は次の規則に従わなければなりません。

- 最初の文字は英字または数字でなければなりません。
- 最後の文字は英字または数字でなければなりません。
- ブランク()は使用できません。
- 特殊文字のピリオド(.)およびマイナス(-)は使用できます。
- ピリオド(.)で区切った名前の部分は最大63桁までの長さにするすることができます。
- IPアドレス名(NNN.NNN.NNN.NNNの形式の)は使用できません。
- 名前は長さが1-255桁でなければなりません。

注: IPアドレスはNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。この場合に、NNNは0-255の範囲内の10進数です。IPアドレスは、アドレスのネットワークID (ID)部分またはホスト名部分がすべて2進数の1,またはすべて2進数のゼロの値であれば無効です。IPアドレスをコマンド行から入力する場合には、アドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

SNAクライアント・アドレスはNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式で指定されます。この場合に、NNNNNNNNはネットワークIDでCCCCCCCCは制御点名です。制御点名CCCCCCCCだけを指定すると、ネットワークIDはそのCCサーバーに割り当てられた制御点名に設定されます。SNAクライアント・アドレスはNNNNNNNN.*CPNAMEとしても指定することができます。この場合に、*CPNAMEは制御点名(CPNAME)キーワードに指定された値です。

指定できるクライアント・アドレスの値は次の通りです。

*CLIENT

クライアント・アドレスは、クライアント名(CLIENT)キーワードに指定した値に設定されます。この値を指定した場合には、アドレス・タイプとして*IPを指定しなければなりません。クライアント名(CLIENT)キーワードに指定された値は、IPアドレスまたはホスト名アドレスとして妥当性検査されます。

*CPNAME

制御点名は制御点名(CPNAME)キーワードに指定した値に設定され、ネットワークIDはこの変更制御サーバーに割り当てられた制御点名に設定されます。この値を指定した場合には、アドレス・タイプとして*SNAを指定しなければなりません。

リモート・ロケーション名

インターネット・プロトコル・ホスト名、IPアドレス、またはSNAネットワークIDおよび制御点名を指定します。

ここで使用できる名前前の特性の詳細については、分散管理/400ご使用の手引きを参照してください。

要素2: アドレス・タイプ

指定できるアドレス・タイプの値は次の通りです。

***IP** リモート・ロケーション名は、インターネット・プロトコル(IP)アドレス・タイプを持ちます。

***SNA** リモート・ロケーション名は、システム・ネットワーク体系(SNA)アドレス・タイプを持ちます。

[トップ](#)

モード名 (MODE)

変更制御クライアントとの接続を定義するモードの名前を指定してください。このパラメーターは、RMTLOCNAMEパラメーターのアドレス・タイプ・キーワードの値が*SNA以外である時には無視されます。

指定できるモードの値は次の通りです。

***NETATR**

ネットワーク属性に指定したモードが使用されます。

モード名

最大8桁までのモード名を指定してください。有効な値は大文字のA-Zと数字の0-9で構成されます。埋め込みブランクを使用することはできません。小文字を指定すると、システムはそれらを変更して大文字として記憶します。

[トップ](#)

ADDCCSCLTの例

例1:省略時の値を使用するクライアントの追加

```
ADDCCSCLT CLIENT(KEVINLUDX) CPNAME(MEXGPL13)
```

例2: ハードウェア・パラメーター、導入トークン、配布期間およびパスワードを使用するクライアント KEVINLUDXの追加

```
ADDCCSCLT CLIENT(KEVINLUDX) CPNAME(MEXGPL13)
          TEXT('CLIENT NO.2')
          DSTPERIOD('12:30:00' '16:43:00') PASSWORD()
          HDWPARAM((MEM 16MB) (DISK 120MB) (KEYB LA))
          INSTKN((TOKEN1 /USR) (TOKEN2 /USR2))
```

例3: DOSオペレーティング・システム、マネージャー、電話、パスワード、アドレス、SNAクライアント・アドレスおよびモードを使用するクライアント CONNERYの追加

```
ADDCCSCLT CLIENT(CONNERY) CPNAME(MEXGPL16) OPSYSTYPE(*DOS)
          TEXT('CLIENT NO.3') DSTPERIOD(*FIRST '16:43:00')
          MANAGER(CHARLES) PHONE('(507)285-2884') PASSWORD()
          ADDRESS('PATRIA AVENUE 30')
          HDWPARAM((MEM 16MB) (DISK 120MB) (KEYB LA))
          INSTKN((TOKEN1 /USR) (TOKEN2 /USR2))
          RMTLOCNAME(APPN.MEXGPL13 *SNA) MODE(BLANK)
```

例4: **WINDOWS NT**オペレーティング・システム, **IP**アドレス, メッセージ・ログ・レベル, ハードウェア・パラメーター, 導入トークン, マネージャー名, 電話およびパスワードによるクライアント**LORENA**の追加

```
ADDCCSCLT  CLIENT(LORENA)  CPNAME(MEXGPL13)
           OPSYSTYPE(*WINDOWSNT)  TEXT('CLIENT NO.4')
           MSGLOGLVL(*MIN)  MANAGER(CHARLES)
           PHONE('(507)112-2884')  PASSWORD()
           ADDRESS('PATRIA AVENUE 30')
           HDWPARAM((MEM 16MB) (DISK 120MB) (KEYB LA))
           INSTKN((TOKEN1 /USR) (TOKEN2 /USR2))
           RMTLOCNAME('9.18.1.2' *IP)
```

[トップ](#)

エラー・メッセージ: **ADDCCSCLT**

*ESCAPE メッセージ

MSS0A1A

ターゲット・アクセス・キーが見つからない。

MSS0A1F

制御点名&2はすでに存在している。

MSS0A2B

導入トークンが正しくない。

MSS0A2D

指定されたクライアント名はすでに存在している。

MSS0A29

ターゲット・アクセス・キー・テーブルが見つからない。

MSS0123

内部処理エラーが起こった。

MSS2102

変更制御クライアントが追加されていない。

[トップ](#)

DSTカタログ項目の追加 (ADDDSTCLGE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布カタログ項目追加(ADDDSTCLGE)コマンドは、配布カタログに項目を追加するために使用されます。データ・オブジェクトは、AS/400ライブラリー、フォルダー、または任意の統合ファイル・システムから配布リポジトリーに任意にロードすることができます。

配布カタログには、配布に適格なオブジェクトのリストが含まれます。各カタログ項目は、グローバル名と呼ばれるネットワーク全体に渡って固有な名前でも識別されます。各カタログ項目は、配布されるオブジェクトが検索のために配置される位置および受信時の記憶位置を記述します。

カタログ項目はオブジェクトのグローバル名、オブジェクトの記憶位置の名前（オブジェクトが存在する場合）、およびオブジェクトの属性からなります。グローバル名に関連するデータ・オブジェクトは、ライブラリー、フォルダー、ストリーム・ファイル、または配布リポジトリーに、標準AS/400オブジェクトとして記憶することができます。

注:

1. オブジェクト・タイプ***LICKEY**を指定した場合には、カタログ処理されるファイルはライセンス・キー・ファイルと見なされます。
2. ライセンス・キー・ファイルまたはストリーム・ファイルをグローバル名に合わせてカタログ処理するための特定の形式は不要です。
3. 導入可能オブジェクトをカタログ処理するためには、特定のグローバル名形式が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
GLBNAME	グローバル名	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: グローバル名トークン1	文字値, *NETID, *MDDATE, *MDTIME, *SERVER, *TARGET	
	要素 2: グローバル名トークン2	文字値, *NETID, *CPNAME, *DATE, *TIME, *MDDATE, *MDTIME, *SERVER, *TARGET	
	要素 3: グローバル名トークン3	文字値, *NETID, *CPNAME, *DATE, *TIME, *MDDATE, *MDTIME, *SERVER, *TARGET	
	要素 4: グローバル名トークン4	文字値, *NETID, *CPNAME, *DATE, *TIME, *MDDATE, *MDTIME, *SERVER, *TARGET	
	要素 5: グローバル名トークン5	文字値, *NETID, *CPNAME, *DATE, *TIME, *MDDATE, *MDTIME, *SERVER, *TARGET	
	要素 6: グローバル名トークン6	文字値, *NETID, *CPNAME, *DATE, *TIME, *MDDATE, *MDTIME, *SERVER, *TARGET	
	要素 7: グローバル名トークン7	文字値, *NETID, *CPNAME, *DATE, *TIME, *MDDATE, *MDTIME, *SERVER, *TARGET	
	要素 8: グローバル名トークン8	文字値, *NETID, *CPNAME, *DATE, *TIME, *MDDATE, *MDTIME, *SERVER, *TARGET	
	要素 9: グローバル名トークン9	文字値, *NETID, *CPNAME, *DATE, *TIME, *MDDATE, *MDTIME, *SERVER, *TARGET	
	要素 10: グローバル名トークン10	文字値, *NETID, *CPNAME, *DATE, *TIME, *MDDATE, *MDTIME, *SERVER, *TARGET	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	文字値	必須, 定位置 2
OBJ	オブジェクト	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *ALL, *FIRST	オプション, 定位置 4
DATATYPE	データ・タイプ	*UNSPEC, *CL, *REXX	オプション, 定位置 5
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *NONE	オプション, 定位置 6
FLR	フォルダー	文字値, *NONE	オプション, 定位置 7
STMF	ストリーム・ファイル	パス名, *NONE	オプション, 定位置 8
STGLOC	ローカル記憶位置	*STD, *DSTRPS	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	*CURRENT, *PRV, V5R1M0, V5R2M0, V5R3M0	オプション
DTACPR	データ圧縮	*NONE, *SNA	オプション
SNACPRCHR	圧縮文字	X'00'-X'FF', *BLANK	オプション
AUTL	権限リスト	名前, QCQRPSAUTL	オプション
DTAACCKEY	データ・アクセス・キー	文字値, *NONE	オプション
TEXT	カタログ項目テキスト	文字値, *OBJTEXT, *BLANK	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
VERSIONATR	バージョン属性	要素リスト	オプション
	要素 1: グローバル名トークン1	<u>*UNSPEC</u>	
	要素 2: グローバル名トークン2	<u>*UNSPEC</u> , *NETID, *CPNAME, *ORDCHAR, *ORDDATE, *ORDDEC, *ORDTIME, *STI, *SYSTYPE	
	要素 3: グローバル名トークン3	<u>*UNSPEC</u> , *NETID, *CPNAME, *ORDCHAR, *ORDDATE, *ORDDEC, *ORDTIME, *STI, *SYSTYPE	
	要素 4: グローバル名トークン4	<u>*UNSPEC</u> , *NETID, *CPNAME, *ORDCHAR, *ORDDATE, *ORDDEC, *ORDTIME, *STI, *SYSTYPE	
	要素 5: グローバル名トークン5	<u>*UNSPEC</u> , *NETID, *CPNAME, *ORDCHAR, *ORDDATE, *ORDDEC, *ORDTIME, *STI, *SYSTYPE	
	要素 6: グローバル名トークン6	<u>*UNSPEC</u> , *NETID, *CPNAME, *ORDCHAR, *ORDDATE, *ORDDEC, *ORDTIME, *STI, *SYSTYPE	
	要素 7: グローバル名トークン7	<u>*UNSPEC</u> , *NETID, *CPNAME, *ORDCHAR, *ORDDATE, *ORDDEC, *ORDTIME, *STI, *SYSTYPE	
	要素 8: グローバル名トークン8	<u>*UNSPEC</u> , *NETID, *CPNAME, *ORDCHAR, *ORDDATE, *ORDDEC, *ORDTIME, *STI, *SYSTYPE	
	要素 9: グローバル名トークン9	<u>*UNSPEC</u> , *NETID, *CPNAME, *ORDCHAR, *ORDDATE, *ORDDEC, *ORDTIME, *STI, *SYSTYPE	
	要素 10: グローバル名トークン10	<u>*UNSPEC</u> , *NETID, *CPNAME, *ORDCHAR, *ORDDATE, *ORDDEC, *ORDTIME, *STI, *SYSTYPE	
MATCHATR	属性の一致	要素リスト	オプション
	要素 1: グローバル名トークン1	<u>*MATCH</u>	
	要素 2: グローバル名トークン2	<u>*NOMATCH</u> , *MATCH	
	要素 3: グローバル名トークン3	<u>*NOMATCH</u> , *MATCH	
	要素 4: グローバル名トークン4	<u>*NOMATCH</u> , *MATCH	
	要素 5: グローバル名トークン5	<u>*NOMATCH</u> , *MATCH	
	要素 6: グローバル名トークン6	<u>*NOMATCH</u> , *MATCH	
	要素 7: グローバル名トークン7	<u>*NOMATCH</u> , *MATCH	
	要素 8: グローバル名トークン8	<u>*NOMATCH</u> , *MATCH	
	要素 9: グローバル名トークン9	<u>*NOMATCH</u> , *MATCH	
	要素 10: グローバル名トークン10	<u>*NOMATCH</u> , *MATCH	

トップ

グローバル名 (GLBNAME)

グローバル名のトークン値を指定します。グローバル名は、システム・ネットワーク体系(SNA) ネットワーク中でオブジェクトの認識に使用される名前です。グローバル名は最大65 -N桁の長さにするができます。Nはトークンの数です。最大10個のトークンを指定することができます、各トークンは最大16桁の長さにするができます。

有効なトークンとは、大文字A-Zと数字0-9からなるものです。特殊文字の#, ¥,および@を使用できるのは、VERSIONATR(*CPNAME)が指定されている場合だけです。多言語ネットワークでは、特殊文字を使用した場合に言語変換で値が無効になることがあります。特殊文字の使用はお勧めできません。

注:

1. プロダクトの配布カタログ項目を追加する時には、グローバル名には、VERSIONATR(*STI)が指定されたトークンが少なくとも1つ入っていなければなりません。
2. OBJTYPE(*PRODUCT)が指定された場合には、グローバル名には、VERSIONATR(*STI)の指定の前に最大7つのトークンを、またVERSIONATR(*STI)の指定の後には最大2つのトークンを入れることができます。
3. グローバル名には最低2つのトークンを指定しなければなりません。
4. *SERVER, *TARGET, *MDDATE,および*MDTIMEの値は、トークン1またはトークン2の場合に有効です。

これは必須パラメーターです。

トークン1として指定できる値は次の通りです。

*NETID

最初のグローバル名トークン値は、ネットワーク属性からコマンドによって生成されたネットワークIDです。VERSIONATR(*UNSPEC)またはVERSIONATR(*NETID)を指定する必要があります。

*MDDATE

このトークンは変更要求活動内に&DATEの値で記憶され、配布時にオブジェクトの最終変更日付によって置き換えられます。

*MDTIME

このトークンは変更要求活動内に&TIMEの値で記憶され、配布時にオブジェクトの最終変更時刻によって置き換えられます。

*SERVER

このトークンは変更要求活動内に&SERVERの値で記憶され、オブジェクトの配布時にCCサーバーの短縮名によって置き換えられます。

*TARGET

このトークンは変更要求活動内に&TARGETの値で記憶され、オブジェクトの配布時にターゲットの短縮名によって置き換えられます。

グローバル名トークン

グローバル名の最初のトークンを指定してください。最初のトークンは登録済みの企業IDまたはネットワークIDにしてください。

可能な後続のトークン値は次の通りです。

***NETID**

グローバル名トークンN値をネットワークIDとして識別します。この値はネットワーク属性から生成されます。対応するトークンのためにVERSIONATR(*UNSPEC) またはVERSIONATR(*NETID)を指定しなければなりません。

***CPNAME**

グローバル名トークン値を制御点名として識別します。この値はネットワーク属性から生成されます。対応するトークンのためにVERSIONATR(*UNSPEC)またはVERSIONATR(*CPNAME)を指定しなければなりません。

***DATE**

グローバル名トークン値を現在の日付として識別します。この値は、Y1992M04D10の形式のシステム値から生成されます。対応するトークンのためにVERSIONATR(*UNSPEC),
VERSIONATR(*ORDDATE),またはVERSIONATR(*ORDCHAR)を指定しなければなりません。

***TIME** グローバル名トークン値を現在の時刻として識別します。この値は、H13M30S20の形式のシステム値から生成されます。対応するトークンのためにVERSIONATR(*UNSPEC),
VERSIONATR(*ORDTIME),またはVERSIONATR(*ORDCHAR)を指定しなければなりません。

***MDDATE**

このトークンは変更要求活動内に&DATEの値で記憶され、配布時にオブジェクトの最終変更日付によって置き換えられます。

***MDTIME**

このトークンは変更要求活動内に&TIMEの値で記憶され、配布時にオブジェクトの最終変更時刻によって置き換えられます。

***SERVER**

このトークンは変更要求活動内に&SERVERの値で記憶され、オブジェクトの配布時にCCサーバーの短縮名によって置き換えられます。

***TARGET**

このトークンは変更要求活動内に&TARGETの値で記憶され、オブジェクトの配布時にターゲットの短縮名によって置き換えられます。

グローバル名トークン

グローバル名のトークンを指定してください。

[トップ](#)

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

使用されるオブジェクトのタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

***FILEDATA**

データを含むファイル・メンバーが属性なしに転送されます。OBJTYPE(*FILEDATA)が指定され、OBJ(*NONE)が指定されていない場合には、MBRパラメーターは必須パラメーターです。

***PRODUCT**

OS/400プロダクトのパッケージ・サポートでパッケージされたプロダクトを入れる保管ファイル

***LICKEY**

ライセンス・キー表示(DSPLICENSE)コマンドによって生成されたライセンス・キー・ファイル。
*LICKEYが指定され、OBJパラメーターが*NONE以外の場合には、MBRパラメーターが必要です。

***STMF**

連続データ・ストリームが入っているストリーム・ファイル。

***INSOBJ**

導入するオブジェクトと、導入可能オブジェクトの導入時に作成しなければならないターゲット・ライブラリー、フォルダー、またはパスの名前と関連づけられたオブジェクトのリストの組み合わせが入っている導入可能オブジェクト。

オブジェクト・タイプ

使用されるOS/400オブジェクトのタイプを指定してください。

[トップ](#)

オブジェクト (OBJ)

カタログ項目を追加する時に使用されるオブジェクトの修飾名を指定します。

使用できる単一の値は次の通りです。

***NONE**

データ・オブジェクトはリポジトリにロードされません。OBJ(*NONE)が有効なのは、STGLOC(*DSTRPS)が指定された場合だけです。

オブジェクトの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

使用できるオブジェクト名の値は次の通りです。

オブジェクト名

ローカル・オブジェクトの名前を指定してください。

[トップ](#)

メンバー (MBR)

OBJTYPE(*FILEDATA)、OBJTYPE(*FILE)、またはOBJTYPE(*LICKEY)が指定された時に使用されるファイル・メンバーを指定します。

***ALL** STGLOC(*DSTRPS)が指定された時には、ファイル全体が配布リポジトリにロードされ、リポジ

トリー・オブジェクトのカタログ項目がカタログに追加されます。STGLOC(*STD)が指定された時には、ファイルのカタログ項目が追加されます。MBR(*ALL)が有効なのは、OBJTYPE(*FILE)が指定された場合だけです。

***FIRST**

STGLOC(*DSTRPS)が指定された時には、最初のファイル・メンバーが配布リポジトリにロードされ、リポジトリ・オブジェクトのカタログ項目がカタログに追加されます。STGLOC(*STD)が指定された時には、最初のメンバーのカタログ項目が追加されます。

メンバー名

使用されるファイル・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

データ・タイプ (DATATYPE)

属性を含まずデータのみとして扱われるメンバーに含まれるデータのタイプを指定します。このパラメーターが有効なのは、OBJTYPE(*FILEDATA)が指定された場合だけです。

***UNSPEC**

データ・タイプは指定されません。

***CL** データ・タイプは制御言語(CL)です。

***REXX**

データ・タイプはREXXです。

[トップ](#)

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

カタログ処理される文書ライブラリー・オブジェクト名を指定します。OBJTYPE(*DOC)が指定された時には、このパラメーターは必須です。

***NONE**

文書は配布リポジトリにロードされません。DLO(*NONE)を使用できるのは、STGLOC(*DSTRPS)が指定された場合だけです。

文書名 カatalog処理される文書の名前を指定してください。有効な文書名は、長さが最大8桁で、ピリオドと1 - 3文字の拡張子で任意に修飾することができます。

[トップ](#)

フォルダー (FLR)

DLOパラメーターに指定された文書が入っているフォルダーの名前を指定します。OBJTYPE(*DOC)またはOBJTYPE(*FLR)が指定された時には、このパラメーターは必須です。

***NONE**

フォルダーまたは文書はリポジトリにロードされません。このパラメーターが有効なのは、STGLOC(*DSTRPS)が指定された場合だけです。

フォルダー名

文書が入っているか、フォルダー名がカタログ処理されるフォルダーの名前を指定します。フォルダー名は、最大63桁の長さにすることができます。

[トップ](#)

ストリーム・ファイル (STMF)

カタログ処理されるストリーム・ファイルを指定します。OBJTYPE(*STMF)が指定された場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

***NONE**

ストリーム・ファイルは配布リポジトリにロードされません。このパラメーターが有効なのは、STGLOC(*DSTRPS)が指定された場合だけです。

オブジェクト・パス名

ストリーム・ファイルのパス名を指定します。これは1980桁のパス名とすることができます。パス名に関する追加情報は*INTEGRATED FILE SYSTEM INTRODUCTION*の資料に入っています。

[トップ](#)

ローカル記憶位置 (STGLOC)

グローバル名が示すデータ・オブジェクトの記憶位置を指定します。

***STD** グローバル名は、OBJ名パラメーターに指定されたオブジェクトを示します。

***DSTRPS**

グローバル名は、配布リポジトリ中のオブジェクトを示します。OBJパラメーターにオブジェクトが指定された場合には、そのオブジェクトはリポジトリにロードされます。

[トップ](#)

ターゲット・リリース (TGTRLS)

オブジェクトを使用したいオペレーティング・システムのリリースを指定します。OBJTYPE(*FILEDATA), OBJTYPE(*PRODUCT), OBJTYPE(*LICKEY), OBJTYPE(*STMF),またはOBJTYPE(*INSOBJ)が指定された場合、あるいはこのオブジェクトが保管ファイルである場合には、このパラメーターは無視されます。

***CURRENT**

このオブジェクトは、現在ユーザー・システムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。システムでV5R3M0を実行中の場合には、*CURRENTは、V5R3M0が導入されたシステムでオブジェクトを使用しようとしていることを意味します。また、オブジェクトは、オペレーティング・システムのそれ以降のリリースが導入されたシステムでも使用することができます。

リリース・レベル

リリース・レベルはVXRXXMXの形式で指定します。オブジェクトは、指定されたリリース、または導入されているオペレーティング・システムのそれ以降のリリースのシステムで使用されます。

有効な値は現行のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、それぞれの新しいリリースによっても変わります。

データ圧縮 (DTACPR)

メンバーを配布リポジトリにロードするために使用される圧縮方式を指定します。

*NONE

オブジェクトは圧縮されません。

***SNA** オブジェクトはSNA圧縮を使用して圧縮されます。

トップ

圧縮文字 (SNACPRCHR)

DTACPR(*SNA)が指定された時にSNA圧縮アルゴリズムで使用される基本圧縮文字を指定します。有効な値の範囲は、16進数'00'X - 'FF'Xです。DTCPR(*NONE)が指定された時には、このパラメーターは無視されます。

*BLANK

基本圧縮文字はブランク（16進数値'40'X）です。

文字 使用される基本圧縮文字の16進数値を指定してください。

トップ

権限リスト (AUTL)

リポジトリ・オブジェクトの権限リストの名前を指定します。STGLOC(*DSTRPS) が指定された時には、このパラメーターは必須です。

QCQRPSAUTL

省略時の権限リストが使用されます。

権限リスト名

使用される権限リストの名前を指定してください。

トップ

権限リスト (DTAACCKEY)

ファイルに関連づけられたデータ・アクセス・キー(DAK)を指定します。この値を指定する場合には、アクセス・キー・テーブルにデータ・アクセス・キー名が存在していなければなりません。このアクセス・キーは、CCサーバー/クライアント環境で使用する時にカタログ項目を保護します。

*NONE

カタログ項目にアクセス・キーは割り当てられません。

アクセス・キー

ファイルに対応するデータ・アクセス・キー(DAK)の名前を指定します。

トップ

カタログ項目テキスト (TEXT)

カタログ項目のテキスト記述を指定します。

***OBJTEXT**

ローカル・オブジェクトのテキスト記述が使用されます。OBJ(*NONE)が指定された時には、この値は正しくありません。

注: テキスト・パラメータにストリーム・ファイルおよび*OBJTEXTのカタログ処理が使用された場合には、カタログ処理されているストリーム・ファイルのカタログ項目記述はストリーム・ファイルのカタログ項目テキストによって生成されます。

***BLANK**

テキストは指定されません。

’記述’ 50桁を超えないアポストロフィで囲まれたテキストを指定してください。

[トップ](#)

バージョン属性 (VERSIONATR)

グローバル名中のトークンのバージョン属性を指定します。この属性はトークンの種類を識別します。

トークン1として指定できる値は次の通りです。

***UNSPEC**

バージョン属性は指定されません。

トークン2から10として指定できる値は次の通りです。

***UNSPEC**

バージョン属性は指定されません。

***NETID**

対応するトークンはネットワークIDです。

***CPNAME**

対応するトークンは制御点名です。

***SYSTYPE**

対応するトークンはシステム・タイプです。

***STI**

対応するトークンはサブツリー標識です。

部分突き合わせでは次の属性をもつトークンを使用することができます。

***ORDCHAR**

対応するトークンは順序づけられた文字です。

***ORDDATE**

対応するトークンは形式Y1989M05D03の順序づけられた日付です。

***ORDDEC**

対応するトークンは順序づけられた10進数です。

***ORDTIME**

対応するトークンは形式H13M30S20の順序づけられた時刻です。

属性の一致 (MATCHATR)

部分的グローバル名の突き合わせが行われる時に、グローバル名中の各トークンが要求中のグローバル名の対応するトークンと一致しなければならないかどうかを指定します。

トークン1として指定できる値は次の通りです。

*MATCH

要求されたトークンはこのトークンに一致しなければなりません。

トークン2から10として指定できる値は次の通りです。

*NOMATCH

要求されたトークンは、このトークンに一致する必要はありません。VERSIONATR(*ORDDATE, *ORDTIME, *ORDCHAR,または*ORDDEC)が指定されたすべてのトークンの場合には、この突き合わせ属性を指定しなければなりません。

*MATCH

要求されたトークンはこのトークンに一致しなければなりません。

ADDSTCLGEの例

例1: ファイルのカタログ項目の追加

```
ADDSTCLGE  GLBNAME(ENTID FINANCE PAYROLL DEDUCT)
           OBJTYPE(*FILE) OBJ(*LIBL/PAYDED) STGLOC(*STD)
```

このコマンドは、給与計算控除額ファイルのカタログ項目を追加します。グローバル名ENTID FINANCE PAYROLL DEDUCTへの参照で受信したすべての要求がファイルPAYDEDで実行されます。

例2: FILEDATAのリポジトリへのファイルのロード

```
ADDSTCLGE  GLBNAME(ENTID INVENTORY *DATE) OBJTYPE(*FILEDATA)
           OBJ(APPLZ/CURINV) MBR(*FIRST) STGLOC(*DSTRPS)
           DTACPR(*SNA) AUTL(MYLIST)
           VERSIONATR(*UNSPEC *ORDCHAR *ORDDATE)
           MATCHATR(*MATCH *NOMATCH *NOMATCH)
```

このコマンドは、ライブラリーCURINVの現行インベントリー・ファイルAPPLZを、配布リポジトリに圧縮形式でロードします。配布リポジトリ中のファイルは、グローバル名ENTID INVENTORY Y1993M09D15によって参照することができます。ファイルは権限リストMYLISTによって保護されます。

例3: 文書のリポジトリへの文書のロード

```
ADDSTCLGE  GLBNAME(ENTID NYPS1 SALESRPT) OBJTYPE(*DOC)
           DLO(STATUS) FLR(NY/SALES.RPT/APRIL)
           STGLOC(*DSTRPS)
```

このコマンドは、フォルダー・パスNY/SALES.RPT/APRILの文書STATUSを、配布リポジトリにロードします。

例4: プロダクトのレジストリーへの配布カタログ項目の追加

```
ADDSTCLGE  GLBNAME(I3IBM1 AS400 ACCOUNT V1R1M0 BASE ALL 2924
            REF 001 V5R2M0) OBJTYPE(*PRODUCT)
            OBJ(ACCLIB/ACCPKG) STGLOC(*DSTRPS)
            VERSIONATR(*UNSPEC *ORDCHAR *ORDCHAR *ORDCHAR
            *ORDCHAR *ORDCHAR *ORDCHAR *STI *ORDDEC *ORDCHAR)
            MATCHATR(*MATCH *NOMATCH *NOMATCH *NOMATCH *NOMATCH
            *NOMATCH *NOMATCH *NOMATCH *MATCH *NOMATCH
            *NOMATCH) TEXT('ACCOUNTING BASE PRODUCT V1R1M0')
```

このコマンドは、配布カタログの項目を追加して、配布リポジトリに保管したプロダクトを示します。

例5: プロダクトの配布カタログへの項目の追加

```
ADDSTCLGE  GLBNAME(I3IBM1 AS400 DSTSYS V1R2M0 BASE ALL
            2924 REF 001 V5R2M0) OBJTYPE(*PRODUCT)
            OBJ(DSTSYSLIB/DSTLP) STGLOC(*STD)
            VERSIONATR(*UNSPEC *ORDCHAR *ORDCHAR *ORDCHAR
            *ORDCHAR *ORDCHAR *ORDCHAR *STI *ORDDEC *ORDCHAR)
            MATCHATR(*MATCH *NOMATCH *NOMATCH *NOMATCH *NOMATCH
            *NOMATCH *NOMATCH *MATCH *NOMATCH *NOMATCH)
            TEXT('DISTRIBUTION SYSTEM BASE PRODUCT V1R2M0')
```

このコマンドは、配布カタログにプロダクトの項目を追加して、ライブラリーDSTSYSLIBの保管ファイルDSTLPを示します。

例6: 配布リポジトリを指示するライセンス・ファイルの配布カタログ項目の追加

```
ADDSTCLGE  GLBNAME(COMPANY1 ACCOUNT LICENSES)
            OBJTYPE(*LICKY) OBJ(ACCNTLIB/ACCLICF)
            MBR(*FIRST) STGLOC(*DSTRPS)
            TEXT('LICENSE FILE FOR ACCOUNT PRODUCT')
```

このコマンドは、配布リポジトリに保管される配布カタログ項目を追加します。プロダクトACCOUNTの既存のライセンス・キーをライセンス・リポジトリから入手するために、ライセンス・ファイルはDSPLICKEYコマンドを実行して事前に生成されました。

例7: OS/400標準ロケーションを位置指定するライセンス・ファイルの配布カタログ項目の追加

```
ADDSTCLGE  GLBNAME(COMPANY2 PURCHASE V3 LICKYS)
            OBJTYPE(*LICKY) OBJ(PURCHLIB/PURCHLICF)
            STGLOC(*STD) MBR(V3LIC)
```

このコマンドは、OS/400標準ロケーションのPURCHLIB/PURCHLICFを位置指定する配布カタログの項目を追加します。ライセンス・ファイルはこの時点で存在することも、しないことも可能です。

例8: ストリーム・ファイルの配布カタログ項目の追加


```

ADDDSTCLGE  GLBNAME(STREAM FILE CATALOG EXAMPLE)
              OBJTYPE(*STMF)  STMF('/DIR1/DIR2/DIR3/USRFILE')
              STGLOC(*DSTRPS)
              TEXT('USER FILE CATALOGED AS STREAM FILE')

```

このコマンドは、配布リポジトリにロードされるストリーム・ファイルを示すリポジトリに配布カタログ項目を追加します。

例9: シンボリック・リンクによるストリーム・ファイルの配布カタログ項目の追加

```

ADDDSTCLGE  GLBNAME(STREAM FILE WITH SYMBOLIC LINKS CATALOG
              EXAMPLE) OBJTYPE(*STMF)  STMF('FILELINK')
              STGLOC(*DSTRPS)
              TEXT('CATALOG A STREAM FILE USING SYMBOLIC LINKS')

```

このコマンドは、配布リポジトリに保管されるストリーム・ファイルを示す配布カタログ項目を追加します。ただし、この例では、ストリーム・ファイルはシンボリック・リンクによって参照されます。この例の前提事項として、現行ディレクトリに次のシンボリック・リンクが含まれているものとします。

```
FILELINK = /SOMEDIRECTORY/SOMEFILE
```

シンボリック・リンクに関する情報は、INFORMATION CENTERの「統合ファイル・システムの概要」のトピックを参照してください。

例10: リモート変更制御サーバー上に*MDDATEおよび*MDTIMEを使用してのストリーム・ファイルの配布カタログ項目の追加

取り引きログまたは販売データなどの、定期的に配布されるファイルをカタログする時には、これらのトークンは有用です。たとえば、毎日、リモート変更制御クライアント（リモート・ターゲット）から取り引きログを検索したい場合は、リモート変更制御クライアントを接続する宛先を以下のようなグローバル名でリモート変更制御サーバー上にこれをカタログすることができます。

```

ADDDSTCLGE  GLBNAME(EURO TRANSACT LOG *MDDATE *MDTIME)
              OBJTYPE(*STMF) OBJ('/TRANSACT/LOGFILE')
              STGLOC(*STD)
              VERSIONATR(*UNSPEC *ORDCHAR *ORDCHAR *ORDDATE
              *ORDTIME) TEXT('TRANSACTION LOG FILE')

```

カタログ項目を表示する時に、それが次のように表示されます。

```
EURO.TRANSACT.LOG.&DATE.&TIME
```

ファイルを検索するには、ローカル・システムに次の変更要求活動を追加することができます。

```

ADDCRQA  CRQD(QGPL/CRQDRTV) ACTIVITY(ACT01) ACTION(*RTV)
          GLBNAME(EURO TRANSACT LOG *MDDATE *MDTIME)
          CPNAME(RMTSRV RMTCLT)

```

変更要求がローカル・システムで投入されると、リモート変更制御クライアントは、そのファイルを最後に更新した実際の日時へ展開した*MDDATEおよび*MDTIMEトークンでグローバル名を戻します。たとえば、そのローカル・ファイルが2001年2月27日の15:40:00に最終変更された場合は、変更制御クライアントから戻されるグローバル名は次のようになります。

```
EURO.TRANSACT.LOG.Y2001M02D27.H15M40S00
```

ローカル・システム（ファイルを検索した宛先）はこの名前でファイルをカタログします。このようにして、同じファイルを毎日検索して、別の名前でそれぞれのコピーをカタログすることができます。ファイルの日時はカタログ項目から簡単に表示できます。

例11: *SERVERおよび*TARGETトークンを使用してのストリーム・ファイルの配布カタログ項目の追加

複数の変更制御クライアント（ターゲット）のファイルに1つのカタログ項目を使用できるように、これらのトークンが使用されます。次のカタログ項目は、"FREDSWS FREDSWS"の名前の変更制御サーバーに追加されます。

```
ADDSTCLGE  GLBNAME(EURO SALES FILE *SERVER *TARGET)
            OBJTYPE(*STMF)
            STMF('/TARGETDIR/SALES/SALES.FILE')
            STGLOC(*STD) TEXT('CLIENTS SALE FILE')
```

変更制御サーバー"FREDSWS FREDSWS"には2つの変更制御クライアント（ターゲット）が接続されています。すなわち、変更制御クライアント"FREDSWS ROSE"および"FREDSWS NORA"で、ファイル'/TARGETDIR/SALES/SALES.FILE'が両方のターゲットに存在します。

別のSNA配布サービス・ノードのユーザーが、グローバル名EURO SALES FILE *SERVER *TARGETを要求することによって、変更制御サーバーFREDSWSに接続されたすべてのターゲットで販売ファイルを検索した場合は、ユーザーはグローバル名EURO SALES FILE FREDSWS ROSEおよびEURO SALES FILE FREDSWS NORAを受け取ります。

もう1つのSNA配布サービス・ノードのユーザーが変更制御サーバー"FREDSWS FREDSWS"からそれを検索した場合には、このユーザーはグローバル名EURO SALES FILE FREDSWS FREDSWSを受け取ります。また、EURO SALES FILE *SERVER *TARGETによって示されたファイルを、OS/400変更制御サーバー"FREDSWS FREDSWS"からフォーカル・ポイントに送信すると、カタログ項目EURO SALES FILE FREDSWS FREDSWSが送信される結果となります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ADDSTCLGE

*ESCAPE メッセージ

MSS005B

記憶域限界を超えた。

MSS0116

グローバル名の最大長を超えた。

MSS0117

グローバル名トークン&3が正しくない。理由コードは&4です。

MSS0118

グローバル名トークン&3が正しくない。理由コードは&4です。

MSS0123

内部処理エラーが起こった。

MSS0124

配布カタログの管理時にエラー。

- MSS0132**
オブジェクト&1のカタログ項目がすでに存在している。
- MSS0133**
配布カタログ項目の追加は認可されていない。
- MSS0135**
配布カタログ項目は追加されていない。
- MSS0136**
グローバル名はすでに存在している。
- MSS0137**
配布カタログ項目は追加されていない。
- MSS0138**
オブジェクト、ファイル・メンバー、フォルダー、または文書が存在していない。
- MSS0139**
ローカル記憶位置が*STDの時には、ライブラリー*LIBLは正しくない。
- MSS013A**
ローカル記憶位置が*STDの時にはメンバー*FIRSTは正しくない。
- MSS013B**
文書&1のカタログ項目はすでに存在している。
- MSS013C**
フォルダーのカタログ項目はすでに存在している。
- MSS013D**
オブジェクトは配布リポジトリにロードされていない。
- MSS014E**
OBJの値&2が8文字を超えている。
- MSS014F**
&1は導入可能なオブジェクトでない。
- MSS0185**
ストリーム・ファイルは配布リポジトリにロードされない。
- MSS0188**
ストリーム・ファイルのカタログ項目がすでに存在している
- MSS019B**
オブジェクト&1の記述が見つからない。
- MSS019D**
フォルダー記述が見つからない。
- MSS01A1**
オブジェクト・タイプ&2はサポートされていない。
- MSS01A6**
グローバル名形式はAS/400プロダクトにだけ有効である。
- MSS01A7**
グローバル名トークン&4のターゲット・リリースはサポートされていない。

MSS01A9

ストリーム・ファイルが見つからない。

MSS01AA

ストリーム・ファイルにアクセスできない。理由コードは&1です。

MSS01D2

ファイルはカタログされていない。

MSS01D5

トークン&3の一致属性&4が正しくない。

MSS01D6

グローバル名トークン&3の長さが正しくない。

MSS01D7

グローバル名トークン&3の値が正しくない。

MSS01D8

グローバル名が正しくない。

MSS01DA

トークン&3のバージョン属性&4が正しくない。

MSS01E1

ライブラリーはQSYSまたは*LIBLでなければならない。

MSS01FB

指定したオブジェクトにプロダクトが入っていない。

MSS01FC

プロダクトのグローバル名が正しくない。

MSS01FE

ターゲット・リリース&1が正しくない。

[トップ](#)

CCサーバー属性の変更 (CHGCCSA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

CCサーバー属性変更(CHGCCSA)コマンドによって、CCサーバー機能の操作を制御するために定義された属性値を変更することができます。この機能は、分散管理プロダクトを使用してローカル接続された変更制御クライアントのソフトウェア配布サポートを提供します。

パラメーターはすべて任意指定です。

注: 分散管理機能が活動状態になっている時に、変更制御サーバー属性を変更した場合には、プログラムを終了(ENDMGDSYSコマンド)してから再びプログラムを開始(STRMGDSYSコマンド)しないと、その変更は有効となりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGLOGLVL	メッセージ・ログ・レベル	*SAME, *MIN, *NORM, *DIAG	オプション
LOGSIZE	ログ・ファイル・サイズ	1-2097152, *SAME	オプション
RBATRCSIZE	RBAPI追跡サイズ	1-2097152, *SAME	オプション
TRCSIZE	追跡スペース・サイズ	1-16383, *SAME	オプション
MAXTGT	最大ターゲット数	1-65335, *SAME	オプション
MAXCNN	最大接続数	1-512, *SAME	オプション
MAXUSRFC	最大ユーザー・インターフェース数	1-65435, *SAME	オプション
TCPPORT	TCP/IPポート	1-32767, *SAME	オプション
AUTMODE	認可モード	*SAME, *ALL, *NONE	オプション
MAXRQS	最大要求数	1-65536, *SAME	オプション
MAXLCLTGT	最大ローカル・ターゲット数	1-2000, *SAME	オプション
IDLETIME	DACA遊休時間	1-32767, *SAME	オプション
RTYTIME	DACA再試行時間	1-32767, *SAME	オプション
MAXLOGIN	最大ログイン試行回数	1-5, *SAME	オプション
STRMGDSYS	STRMGDSYSコマンドからの処置	*SAME, *STRCCSJOB, *NOSTRCCSJOB	オプション
AUTOTGTREG	自動ターゲット登録	要素リスト	オプション
	要素 1: 自動登録	*SAME, *YES, *NO	
	要素 2: 登録モード	*SAME, *PULL, *PUSH, *NOMODE	
CCSWRKSTN	CCSワークステーション名	文字値, *SAME, *LCLSNA, *LCLTCP	オプション
DFTUSRPRF	省略時ユーザー・プロファイル	単純名, *SAME, *SBM	オプション
ENBNTFCLT	NETFINITY クライアントの使用可能化	*SAME, *YES, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
CODEPAGE	クライアント・コード・ページ	整数, *SAME, *DFT	オプション

トップ

メッセージ・ログ・レベル (MSGLOGLVL)

メッセージ・ログ・レベルは、変更制御クライアントが変更制御サーバーへの接続を確立しそこで構成されたレベルを見つける前に、使用する必要があるログ・レベルを定義します。

*SAME

現行の値は変わりません。

*NORM

このログのレベルには、変更管理要求の受け入れなどの主要または通常の事象についてのエラーとメッセージの両方が含まれます。

***MIN** この値は、システムに過剰ログ問題がある場合にだけ選択する必要があります。このレベルでは、最小情報量のエラー・メッセージがログされます。致命的なエラーは常にログに記録されます。

***DIAG** この値は、問題の解決を助けるためにログの収集が行われる場合に選択してください。この値を指定すると、CCサーバーのプロセスについての詳細な情報が報告されます。

トップ

ログ・ファイル・サイズ (LOGSIZE)

ログ・ファイルの最大サイズをKバイトで指定してください。ログ・ファイルがいっぱいの場合には、バックアップ・ファイルが自動的に作成されて新しいログ・ファイルが開始されます。

*SAME

現行の値は変わりません。

ログのサイズ

データ量のサイズをキロバイトで指定してください(1キロバイトは1024バイトです)。

トップ

RBAPI追跡サイズ (RBATRCSIZE)

要求ブロックAPI (RBAPI)追跡ファイルのサイズを指定してください。RBAPI追跡ファイルには、要求ブロックAPI (RBAPI)操作の追跡が入っています。追跡ファイルがいっぱいの場合には、バックアップ操作が自動的に実行されて新しい追跡ファイルが開始されます。要求ブロックAPIは、CCクライアントに対するCCサーバー機能を提供します。

*SAME

現行の値は変わりません。

API追跡サイズ

データ量のサイズをキロバイトで指定してください(1キロバイトは1024バイトです)。

追跡スペース・サイズ (TRCSIZE)

内部追跡スペースのサイズの最大サイズを指定してください。追跡スペースには、実行可能プログラムの処理の追跡が入っています。この追跡値はデバッグまたは診断目的に使用します。

*SAME

現行の値は変わりません。

追跡サイズ

データ量のサイズをキロバイトで指定してください(1キロバイトは1024バイトです)。

トップ

最大ターゲット数 (MAXTGT)

使用できるターゲットの最大数を指定してください。この数字にはローカルおよびリモート・ターゲット・システムが含まれなければなりません。

*SAME

現行の値は変わりません。

最大ターゲット数

使用できるターゲット数に対応する値を指定してください。使用できるターゲット数は1 - 65335です。

トップ

最大接続数 (MAXCNN)

同時に存在する接続済みローカル・ターゲットの最大数を指定してください。接続済みとは、ターゲットが配布および変更管理要求を実行中であることを意味します。

*SAME

現行の値は変わりません。

最大接続数

最大接続数に対する数値を指定してください。使用できる接続数は1 - 512です。この値をターゲットの最大数より大きくすることはできません。

トップ

最大ユーザー・インターフェース数 (MAXUSRIFC)

同時に存在する接続済みユーザー・インターフェースの最大数を指定してください。ユーザー・インターフェースは、接続された変更管理クライアントのそれぞれに対して構成されることもあり構成されないこともあります。ユーザー・インターフェースが構成されていない変更管理クライアントは考慮されません。ここに指定する数字は、サーバーによって同時にサポートされるユーザー・インターフェースの最大数に対応しなければなりません。

***SAME**

現行の値は変わりません。

ユーザー・インターフェースの最大数

使用可能なユーザー・インターフェースの最大数を指定してください。使用できるインターフェース数は1 - 65435です。

トップ

TCP/IPポート (TCP/PORT)

CCサーバーのTCP/IPポート番号。この値は10進数でなければなりません。この値はAS/400 CCサーバーのサービス項目に指定したポートと一致しなければなりません。この値は、サービス・テーブル項目処理 (WRKSRVTBLE)コマンドを使用して確認することができます。

***SAME**

現行の値は変わりません。

TCP/IPポート

CCサーバーのポートを識別するポート番号を指定してください。有効な値は1-32767 です。

トップ

認可モード (AUTMODE)

システムに関連づけられた許可モード。

***SAME**

現行の値は変わりません。

***NONE**

AUTHコマンドで明示的に許可されていない限り、変更ファイルを導入しあるいはデータ・ファイルを開始することはターゲットに許可されていません。**AUTH**コマンドはNETVIEW FOR AIXのコマンドです。このコマンドを使用して、ターゲット・グループでの変更ファイルの導入を許可し、あるいはターゲットまたはグループによるデータ・ファイルの実行を許可することができます。このコマンドは、変更ファイルを導入する前に出さなければなりません。このコマンドの詳細については、SOFTWARE DISTRIBUTION FOR AIX REFERENCEを参照してください。

***ALL**

UNAUTHコマンドを使用して明示的に無許可になっていない限り、ターゲットは変更ファイルを導入しあるいはデータ・ファイルを開始することを許可されます。**UNAUTH**コマンドはNETVIEW FOR AIXのコマンドです。このコマンドを使用して、ターゲットまたはグループに対するカタログ項目の許可を取り消すことができます。このコマンドを使用すると、ターゲット・システムはカタログ項目を表示または使用することができません。このコマンドの詳細については、SOFTWARE DISTRIBUTION FOR AIX REFERENCEを参照してください。

トップ

最大要求数 (MAXRQS)

CCサーバー・システムの未処理の要求の最大数。

***SAME**

現行の値は変わりません。

最大要求数

1-65536の値を指定してください。

[トップ](#)

最大ローカル・ターゲット数 (MAXLCLTGT)

ローカル・ターゲット・システムの最大数。

***SAME**

現行の値は変わりません。

最大ローカル・ターゲット数

1 - 2000の値を指定してください。

[トップ](#)

DACA遊休時間 (IDLETIME)

遊休状態のNETVIEW/DMエージェント（変更制御クライアント・エージェント）接続が失敗したと見なされるまでの時間（秒数）。

***SAME**

現行の値は変わりません。

遊休時間

1-32767秒の値を指定してください。

[トップ](#)

DACA再試行時間 (RTYTIME)

失敗したNETVIEW/DMエージェント（変更制御クライアント・エージェント）接続が再試行されるまでの時間（秒数）。

***SAME**

現行の値は変わりません。

再試行時間

1-32767秒の値を指定してください。

[トップ](#)

最大ログイン試行回数 (MAXLOGIN)

システムがサーバーへのアクセスを一時的に切断するまでに、サーバーに接続しようとして正常に実行されない最大回数を指定します。

***SAME**

現行の値は変わりません。

最大ログイン試行回数

1-5の値を指定してください。

[トップ](#)

このシステムに対してCCサーバー機能を使用可能にするかどうかを指定してください。STRMGDSYSを指定すると、分散管理開始(STRMGDSYS)コマンドの実行時にCCサーバー機能が開始されます。このコマンドにより、オブジェクトの受け入れ、プログラムの実行、コマンドの実行、およびプログラム一時修正(PTF)の適用などの分散管理機能を実行することができます。

***SAME**

現行の値は変わりません。

***STRCCSJOB**

CCサーバー機能を使用可能にします。

***NOSTRCCSJOB**

CCサーバー機能を使用可能にしません。

[トップ](#)

自動ターゲット登録 (AUTOTGTREG)

これは自動ターゲット登録値です。このフィールドは、自動登録と登録モードの2つの値から構成されています。

自動登録

このキーワードによって、クライアントはクライアント自身をサーバーのローカル・ターゲットの1つとしてサーバー・データベースに自動的に登録することができます。この登録は、まだクライアントが構成されていない場合に、最初にクライアントがサーバーに接続した時に実行されます。

***SAME**

現行の値は変わりません。

***NO** ターゲットがサーバーに登録できるようにしません。

***YES** ターゲットがサーバーに登録できるようにします。

登録モード

自動ターゲット登録パラメーターがYESの時に自動的に登録されるターゲットに割り当てる省略時のモードを指定してください。

***SAME**

現在の値は変更されません。

***PULL** ターゲットはプル・モード・ターゲットです。プル・モード・ターゲットの変更管理操作は、CCサーバーで管理者によって制御されるか、あるいはフォーカルまたはマネージャー・ターゲットから制御されます。

***PUSH**

ターゲットはプッシュ・モード・ターゲットです。プッシュ・モード・ターゲットの変更管理操作は、CCサーバーで管理者によって制御されるか、あるいはフォーカルまたはマネージャー・ターゲットから制御されます。

***NOMODE**

ターゲットにモードが定義されていません。このターゲットはユーザー・インターフェースを使用するだけです。このことは、ワークステーションがネットワーク内のCCサーバーの管理機能を実行するかまたはターゲットへの配布をスケジュールするために管理者によって使用されることを意味しています。ユーザー・インターフェースのみのターゲットは、ソフトウェア配布ユーザー・インターフェースを実行するために使用されるだけです。このタイプのターゲットは、複数のCCサーバーを持つ環境で効果的に使用することができます。モードなしは、ユーザー・インターフェースのみのターゲットに構成することができます。これらのターゲットは、それらがユーザー・インターフェースとして定義される同じCCサーバーからCC命令を受け取ることができないからです。

トップ

CCSワークステーション名 (CCSWRKSTN)

CCサーバーが実行中のシステムの名前。接続媒体としてTCP/IPを使用している場合には、このパラメータに指定した値はTCP/IP構成情報に指定したローカル・ホストおよびドメイン名と一致しなければなりません。

***SAME**

現在の値は変更されません。

***LCLSNA**

ローカル制御点名およびネットワークID。ローカルCCサーバーの制御点名とネットワークIDは、連結されてCCサーバー(CCS)ワークステーション名を形成します。制御点名およびネットワークIDの値はシステムのローカルSNA構成（ネットワーク属性）から取り出されます。

***LCLTCP**

ローカル・ホスト名およびドメイン名。ローカルCCサーバーのホスト名とドメイン名は、連結されてCCサーバー(CCS)ワークステーション名を形成します。ホスト名およびドメイン名はシステムのローカルTCP構成から取り出されます。

CCSワークステーション名

CCサーバーのワークステーション名を指定してください。このワークステーション名は最大64桁までにすることができます。

トップ

省略時ユーザー・プロファイル (DFTUSRPRF)

CCサーバーに対する変更要求活動に使用される省略時ユーザー・プロファイル。このプロファイルは、CCサーバーの権限を検査するために使用され、配布済みオブジェクトの所有者でもあります。

活動の処理に省略時ユーザー・プロファイルが使用されます。

***SAME**

現在の値は変更されません。

名前 省略時ユーザー・プロファイル名を指定してください。このプロファイルは、オブジェクト配布要求に使用されます。

***SBM** オブジェクト配布要求の投入元のユーザー・プロファイルを指定してください。

トップ

NETFINITY クライアントの使用可能化 (ENBNTFCLT)

変更制御サーバーがNETFINITYクライアントをサポートするかどうかを指定します。

***SAME**

現在の値は変更されません。

***YES** 変更制御サーバーはNETFINITYクライアントからの接続をサポートできます。

***NO** 変更制御サーバーはNETFINITYクライアントからの接続をサポートできません。

トップ

クライアント・コード・ページ (CODEPAGE)

この変更制御サーバーのドメインに対する変更制御クライアントのコード・ページの番号を指定します。

***SAME**

現在の値は変更されません。

***DFT** 省略時のコード・ページ番号が使用されます。プログラムは、システムのEBCDIC CCSIDのような、ASCII CCSIDと対応したコード・ページを使用します。QCCSIDシステム値が65535の場合には、EBCDIC CCSIDは、QLANGIDシステム値と対応したCCSIDから取り出されます。QCCSIDシステム値が65535以外のものである場合には、EBCDIC CCSIDはQCCSIDシステム値から取り出されません。

コード・ページ番号

クライアントのコード・ページ番号。

トップ

CHGCCSAの例

例1: 変更制御サーバーの最大接続数, 最大ターゲット数, および属性の登録モードの変更

```
CHGCCSA MAXTGT(300) MAXCNN(312) AUTOTGTREG(*YES *PUSH)
```

この例では、300個のターゲット、312個の接続数、およびその登録がプッシュ・モードで、自動であることを示します。

例2: 変更制御サーバーの開始の変更

```
CHGCCSA STRMGDSYS(*NOSTRCCSJOB)
```

このコマンドは、ユーザーが変更制御サーバー・ジョブを開始したくないので、ユーザーがSTRMGDSYSコマンドを実行する時に実行する変更制御サーバー機能がないことを指定します。

トップ

エラー・メッセージ： CHGCCSA

*ESCAPE メッセージ

MSS0431

変更制御サーバー属性を変更することができない。

MSS0437

MAXCNNをMAXTGTまたはMAXLCLTGTより大きくすることはできません。

MSS0439

パラメーターCCSWRKSTNに*LCLTCPは指定できない。

MSS0441

パラメーターCCSWRKSTNに値&1は正しくない。

MSS0447

クライアントコード・ページ・パラメーター値が変更されていません。

MSS0448

変更制御サーバー・データベースのエラー。

MSS044A

登録済みのターゲットの数に達した。

CPD0084

パラメーター&2に対して&3が正しくない。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

[トップ](#)

管理対象システムの属性の変更 (CHGMGDSYSA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

管理下のシステムの属性変更(CHGMGDSYSA)コマンドは、分散管理ライセンス・プログラムに固有なシステム全体にわたる構成属性を更新します。

この属性によって、ユーザーは管理下のシステムによって受け入れられる活動および活動が実行される時のユーザー・プロファイルを制御することができます。

分散管理機能が活動状態の時に、変更制御サーバー属性を変更した場合には、次の通り実行しなければなりません。

1. 分散管理機能を終了(ENDMGDSYSコマンド) します。
2. 分散管理機能を開始(STRMGDSYSコマンド) します。

制約事項:

1. このコマンドが処理される時には、配布機密保護プログラム、省略時ユーザー・プロファイル、およびリモート・コマンド機密保護プログラムが存在しなければなりません。
2. 機密保護プログラム、省略時ユーザー・プロファイル、およびリモート・コマンド機密保護プログラムに対する*ALLOBJ特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ACCRCVCRQA	受信した活動の受け入れ	*SAME, *NO, *YES	オプション、定位置 1
SECPGM	配布機密保護プログラム	単一値: *SAME, *DFT, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 配布機密保護プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DFTUSRPRF	省略時ユーザー・プロファイル	単純名, *SAME, *NONE, *REQUESTER	オプション
INACTIV	非活動ユーザー・タイムアウト	0-999, *SAME, *NONE	オプション
SNDINTRSP	中間応答の送信	*SAME, *NO, *YES	オプション
PFXTOKEN	グローバル名接頭部トークン	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値, *SAME, *NONE	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
RMTSECPGM	リモート・コマンド機密保護プログラム	単一値: *SAME , *DFT その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: リモート・コマンド機密保護プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
MAXDTA	最大戻りデータ	1-99999, *SAME , *NOMAX	オプション
DLTSPLF	スプール・ファイルの削除	*SAME , *YES, *NO, *SUCCESS	オプション
KEY	リモート・コマンド・キー	文字値, *SAME , *NONE	オプション

トップ

受信した活動の受け入れ (ACCRCVCRQA)

変更要求活動が処理に受け入れられるかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** リモート・システムから受け取られた変更要求活動は受け入れられます。

***NO** 変更要求活動は受け入れられません。

トップ

配布機密保護プログラム (SECPGM)

使用される配布機密保護プログラムを指定します。指定されたプログラムは、受け入れられる要求を決定するために、要求が受け取られた時に実行されます。

***SAME**

値は変更されません。

***DFT** 省略時の配布機密保護プログラムが使用されます。この配布機密保護プログラムでは、PTFおよびプロダクトの受け取りは可能ですが、システムに適用されません。このプログラムでは、他のオブジェクトを処理することはできません。

***NONE**

配布機密保護プログラムは指定されません。ACCRCVACT(*YES)が指定された時には、すべての活動が受け入れられます。活動の処理に省略時ユーザー・プロファイルが使用されます。

オブジェクトの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

プログラム名

配布機密保護プログラムの名前を指定してください。

[トップ](#)

省略時ユーザー・プロファイル (DFTUSRPRF)

配布機密保護プログラムが指定されていない場合に、変更要求活動に使用される省略時のユーザー・プロファイル指定してください。このパラメーターに対してユーザー・プロファイルQSECOFR, QSPL, QDOC, QDBSHR, QRJE, QSYS, QLPAUTO, QLPINSTALL, QTSTRQS,およびQDFTOWNは正しくありません。

*SAME

値は変更されません。

*REQUESTER

活動は、中央側システムで要求を開始したものと同じユーザー・プロファイルを使用して処理されます。開始ユーザー・プロファイルがこの管理下のシステムに存在しない場合には、活動は受け入れられません。

*NONE

処理要求に省略時のユーザー・プロファイルは指定されません。活動が処理される場合には、配布機密保護プログラムを指定しなければならず、使用するユーザー・プロファイルの名前を指示しなければなりません。

ユーザー・プロファイル名

使用されるユーザー・プロファイル・オブジェクトの名前を指定してください。

[トップ](#)

非活動ユーザー・タイムアウト (INACTITV)

ジョブがリモート・コマンド要求または変更要求活動の受け取りを待機しなければならない時間（分数）を指定します。指定された時間枠内に活動が受け取られなかった場合には、ジョブによる活動の処理は終了します。新しい活動が受け取られた時に新しいジョブが開始されます。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

タイムアウト値は指定されません。

タイムアウト間隔

非活動ジョブが追加の要求を待機する時間（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0-999です。

[トップ](#)

中間応答の送信 (SNDINTRSP)

中間応答が中央側システムに送られるかどうかを指定します。中間応答には交換通信リンクの活動化が必要になることがあります。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** 中間応答が送られます。

***NO** 中間応答は送られません。

トップ

グローバル名接頭部トークン (PFXTOKEN)

グローバル名の始めに見つかった時に、標準AS/400オブジェクト名をグローバル名中に見つけることができることを示すトークンのセットを指定します。配布に標準AS/400オブジェクト名を使用するためには、ネットワーク中のすべてのシステムで一貫性のあるトークンのセットを使用しなければなりません。配布カタログに追加されるグローバル名で使用されないように、トークン名が固有でなければなりません。

このパラメーターには複数個の値を入力することができます。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

接頭部トークンは使用されません。変更されるすべてのオブジェクトがカタログ中で識別されません。

接頭部トークン値

標準AS/400名をグローバル名で見つけることができることを示すトークンのセットを指定します。この接頭部トークンで始まるグローバル名をもつオブジェクトには、SYSTEMVIEW 配布カタログが使用されません。合計が20桁以内の1-4個のトークンを指定することができます。最初のトークンには企業IDまたはネットワークIDを使用するようにお勧めします。

トップ

リモート・コマンド機密保護プログラム (RMTSECPGM)

使用されるリモート・コマンド機密保護プログラムを指定します。コマンドの実行要求を中央側システムから受け取った時に、指定されたプログラムを実行します。このプログラムが、その要求を受け入れるかどうか、およびどのユーザー・プロファイルのもとで実行するかを判別します。

***SAME**

値は変更されません。

***DFT** 省略時のリモート・コマンド機密保護プログラムが使用されます。この機密保護プログラムによって、すべてのコマンドを受け取り、システムで実行することができます。

オブジェクトの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

プログラム名

機密保護プログラムの名前を指定します。

[トップ](#)

最大戻りデータ (MAXDTA)

リモート・コマンド要求を処理した時に中央側システムに戻ることができる、データの最大数について制限 (Kバイト) を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NOMAX

戻されるデータ数に制限はありません。

キロバイト数

リモート・コマンド要求を処理した時に中央側システムに戻ることができる、データの容量のキロバイト数を指定してください。有効な値の範囲は1-99999です。

[トップ](#)

スプール・ファイルの削除 (DLTSPLF)

リモート・コマンド要求を完了した後に、スプール・ファイルを削除するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***YES** スプール・ファイルは削除されます。

***NO** スプール・ファイルは削除されません。

*SUCCESS

要求が正常に完了した時にかぎり、スプール・ファイルが削除されます。コマンドの実行中にエスケープ・メッセージを受け取らない場合には、その要求は正常に行われたと見なされます。

[トップ](#)

リモート・コマンド・キー (KEY)

リモート・コマンド要求のエンコードまたはデコードに使用されるキーを指定します。この値は、リモート・コマンドを送信したシステムとリモート・コマンドを受信したシステムで同じでなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

エンコードまたはデコードのキーは使用されません。

キー 文字ストリングまたは16進数ストリングとして64バイトの文字ストリングを指定します。

[トップ](#)

CHGMGDSYSAの例

例1: 中央側システムの構成

```
CHGMGDSYSA ACCRCVACT(*YES) SECPGM(*NONE) DFTUSRPRF(QUSER)
            INACTITV(30) SNDINTRSP(*YES)
            PFXTOKEN(ABCCO AUTOMAP)
```

このコマンドは中央側システムを構成し、変更要求活動をサポートし、QUSERユーザー・プロファイルの元でこれらを実行します。中間応答が送られます。ABCCO AUTOMAPで始まるグローバル名は、標準OS/400オブジェクト名を使用してオブジェクトを送信するために予約されています。30分以内に要求を受信しないと、要求の処理のために待機しているジョブは終了されます。

例2: リモート・コマンド機能の構成

```
CHGMGDSYSA RMTSECPGM(*DFT) DLTSPLF(*SUCCESS)
            MAXDTA(*NOMAX) KEY(*NONE)
```

このコマンドは、省略時のリモート・コマンド機密保護プログラムを使用するためのリモート・コマンド機能を構成し、要求が正常に実行された時にスプール・ファイルを削除し、戻されるデータの容量に制限がないことを指定します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGMGDSYSA

*ESCAPE メッセージ

MSS0413

省略時ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

MSS0414

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

MSS0415

管理対象システムの属性が見つからないか、あるいは損傷している。

MSS0417

グローバル名接頭部トークンの長さ&1が長すぎる。

MSS0418

DFTUSRPRFおよびSECPGMの両方に*NONEを指定することはできない。

MSS0419

グローバル名接頭部トークン&1は正しくない。

MSS041A

*ALLOBJ特殊権限が必要である。

[トップ](#)

管理機能サービス属性の変更 (CHGMGRSRVA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

管理機能サービス属性の変更(CHGMGRSRVA)コマンドによって、クリーンアップの時間間隔、コマンド要求を活動状態にしておく最大時間、およびコマンド要求をリモート・コマンドの活動記録ファイルに保管する最大時間を制御することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLNUP	リモート・コマンドのクリーンアップ	要素リスト	オプション、位置 1
	要素 1: クリーンアップの間隔	0-999, *SAME , *STARTUP	
	要素 2: 最大活動時間	1-999, *SAME	
	要素 3: 最大活動記録日数	0-999, *SAME , *NOMAX	

[トップ](#)

リモート・コマンドのクリーンアップ (CLNUP)

活動中のリモート・コマンドのクリーンアップをする回数、リモート・コマンドを活動状態のままにできる長さ、および完了したコマンドを活動記録データベース・ファイルに保存する長さを指定します。リモート・コマンドの管理機能サービスが開始された時には常に、クリーンアップが行われます。クリーンアップは、システムから次のものを除去するため行われます。

- 未処理の活動コマンド要求の関連情報
- 活動記録ログのコマンド要求情報

クリーンアップされる未処理の活動コマンド要求は活動記録ログに入れられます。

クリーンアップの間隔

可能なクリーンアップの間隔値は次の通りです。

***SAME**

現在の値は変更されません。

***STARTUP**

リモート・コマンド管理機能サービスが開始された時にかぎり、クリーンアップが行われます。

クリーンアップの間隔

クリーンアップを行う必要がある時間の間隔を時間数で指定します。たとえば、24を指定した場合には、クリーンアップは24時間ごとに開始されます。有効な値の範囲は0-999です。

最大活動時間

可能な活動時間の値は次の通りです。

*SAME

現在の値は変更されません。

最大活動時間

活動中のリモート・コマンド要求をクリーンアップする前に、これをリモート・システム上で活動状態のままにできる時間数を指定します。クリーンアップが開始されると、指定された時間以上に活動状態となったすべての活動要求はクリーンアップされます。有効な値の範囲は1-999です。

最大活動記録日数

可能な活動記録値は次の通りです。

*SAME

現在の値は変更されません。

*NOMAX

活動記録ログはリモート・コマンド管理機能によってクリーンアップされません。活動記録ログの項目を削除するのは、ユーザーの責任となります。

最大活動記録日数

完了したリモート・コマンド要求をクリーンアップする前に、これを活動記録ログのデータベース・ファイルに残しておく日数を指定します。クリーンアップが開始されると、指定された時間以上に活動記録データベース・ファイルに記憶されたすべての完了済み要求はクリーンアップされます。有効な値の範囲は0-999です。

注: データベース・ファイルのスペースを使いきってしまった場合には、完了した要求は記録されません。

[トップ](#)

CHGMGRSRVAの例

```
CHGMGRSRVA CLNUP(*STARTUP 48 7)
```

このコマンドは、サービスを開始する時にクリーンアップを実行するためのリモート・コマンド・サービスを構成します。コマンドは48時間活動状態のままになり、7日間活動記録ファイルに記録されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGMGRSRVA

*ESCAPE メッセージ

MSS0415

管理対象システムの属性が見つからないか、あるいは損傷している。

MSS041A

*ALLOBJ特殊権限が必要である。

[トップ](#)

DST リポジトリ・オブジェクト・コピー (CPYDSTRPSO)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布リポジトリ・オブジェクト・コピー(CPYDSTRPSO)コマンドは、配布リポジトリに入っているオブジェクトをライブラリーまたはフォルダーにコピーするために使用します。指定したオブジェクトのオブジェクト・タイプは、配布リポジトリの中の情報と一致していなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
GLBNAME	グローバル名	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: グローバル名トークン1	文字値, *NETID, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 2: グローバル名トークン2	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 3: グローバル名トークン3	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 4: グローバル名トークン4	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 5: グローバル名トークン5	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 6: グローバル名トークン6	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 7: グローバル名トークン7	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 8: グローバル名トークン8	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 9: グローバル名トークン9	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 10: グローバル名トークン10	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *ALL, *FIRST	オプション, 定位置 3
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値	オプション, 定位置 4
FLR	フォルダー	文字値	オプション, 定位置 5
STMF	ストリーム・ファイル	パス名	オプション, 定位置 6

キーワード	記述	選択項目	注
REPLACE	既存データの置換または追加	*YES, *ADD, *NO	オプション

トップ

グローバル名 (GLBNAME)

コピーされる固有なカタログ項目を見つけるために使用されるグローバル名のトークンを指定します。

グローバル名は少なくとも2つのトークンから構成されなければなりません。

これは必須パラメーターです。

トークン1として指定できる値は次の通りです。

*NETID

最初のグローバル名トークン値は、ネットワーク属性からコマンドによって生成されたネットワークIDです。

グローバル名トークン1

グローバル名の最初のトークンを指定してください。

最初のトークンは登録済みの企業IDまたはネットワークIDでなければなりません。トークン2から10の値は、最初のトークンにある名前と識別される権限によって割り当てられます。

トークン2から10として指定できる値は次の通りです。

***ANY** 対応するトークン値は無視されます。

*HIGHEST

最高位の対応するトークン値をもつカタログ項目が選択されます。トークンのバージョン属性は*ORDCHAR, *ORDDATE, *ORDDEC,または*ORDTIMEでなければなりません。

*LOWEST

最低位の対応するトークン値をもつカタログ項目が選択されます。トークンのバージョン属性は*ORDCHAR, *ORDDATE, *ORDDEC,または*ORDTIMEでなければなりません。

*NETID

グローバル名トークンN値はネットワークIDです。この値はネットワーク属性から生成されます。

*CPNAME

グローバル名トークン値は制御点名です。この値はネットワーク属性から生成されます。

*SERVER

このトークンは変更要求活動内に&SERVERの値で記憶され、オブジェクトの配布時にCCサーバーの短縮名によって置き換えられます。

*TARGET

このトークンは変更要求活動内に&TARGETの値で記憶され、オブジェクトの配布時にターゲットの短縮名によって置き換えられます。

*MDDATE

このトークンは変更要求活動内に&DATEの値で記憶され、配布時にオブジェクトの最終変更日付によって置き換えられます。

*MDTIME

このトークンは変更要求活動内に&TIMEの値で記憶され、配布時にオブジェクトの最終変更時刻によって置き換えられます。

グローバル名トークン

グローバル名のトークンを指定してください。このフィールドは左寄せされ、右側にブランクが埋め込まれます。

[トップ](#)

オブジェクト (OBJ)

リポジトリ・オブジェクトがコピーされるオブジェクトおよびライブラリーを指定します。配布リポジトリ・オブジェクトをQTEMPライブラリーにコピーすることはできません。

リポジトリ・オブジェクトの名前は次の1つのライブラリー値で修飾することができます。

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

オブジェクト名

リポジトリ・オブジェクトがコピーされるオブジェクトの名前を指定してください。

[トップ](#)

メンバー (MBR)

リポジトリ・オブジェクトがコピーされるファイル・メンバーの名前を指定します。この値は、配布リポジトリ・オブジェクト・タイプがファイルの場合に有効です。

***ALL** ファイル全体がOBJパラメーターに指定されたファイルにコピーされます。この値は、オブジェクト・タイプが*FILEDATAの場合には正しくありません。

*FIRST

ファイルの最初のメンバーがこのメンバーを受け取ります。*FIRSTが指定され、メンバーが存在しない場合には、OBJパラメーターに指定されたファイルの名前でメンバーが作成されます。

メンバー名

データがコピーされるファイル・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

配布リポジトリ・オブジェクトがコピーされる文書の名前を指定します。文書のコピーするためには、文書名およびフォルダー・パスを指定しなければなりません。フォルダーをコピーするためには、フォルダー名 (FLRパラメーター) だけが必要です。このパラメーターが有効なのは、コピーされる配布リポジトリ・オブジェクトが文書である場合だけです。

[トップ](#)

フォルダー (FLR)

配布リポジトリ・オブジェクトがコピーされるフォルダーの名前を指定します。コピーされる配布リポジトリ・オブジェクトが文書またはフォルダーの場合には、このパラメーターは必須です。

フォルダー名

文書がコピーされるフォルダーのパスの名前 (オブジェクト・タイプ*DOCの場合) またはコピーするフォルダー名 (オブジェクト・タイプ*FLRの場合) を指定します。

[トップ](#)

ストリーム・ファイル (STMF)

配布リポジトリ・オブジェクトがコピーされるストリーム・ファイルを指定します。

オブジェクト・パス名

データがコピーされるストリーム・ファイルのパス名を指定します。パス名の長さは最大5000桁までとすることができます。このパラメーターを指定できるのは、コピーされる配布リポジトリ・オブジェクトにストリーム・ファイル(*STMF)、ファイル・データ(*FILEDATA)、またはサポートされないAS/400オブジェクト・タイプが入っている場合だけです。パス名に関する追加情報は *INTEGRATED FILE SYSTEM INTRODUCTION*の資料に入っています。

[トップ](#)

既存データの置換または追加 (REPLACE)

既存のデータを置き換えるか、あるいはレコードをファイル・メンバーに追加するかどうかを指定します。

- *NO** 既存のオブジェクトは変更されません。データをもつ新しいオブジェクトが作成されます。
- *YES** 既存のオブジェクトが新しいデータで置き換えられます。新しいオブジェクトが作成され、ユーザーはそのオブジェクトに対する適切な権限を与えられます。
- *ADD** 既存のメンバーの後に新しいレコードが追加されます。ターゲット・ファイル・メンバーが存在していない場合には、それが作成されます。メンバーを含むファイルが存在していなければなりません。

[トップ](#)

CPYDSTRPSOの例

例1: 配布リポジトリ・ファイルのコピー

```
CPYDSTRPSO  GLBNAME(ABC *LOWEST *HIGHEST *ANY ROLLM)
             OBJ(*LIBL/MYFILE)  REPLACE(*YES)
```

このコマンドは、配布リポジトリからローカル・オブジェクトMYFILEにファイルをコピーします。このファイルは指定されたグローバル名の検索基準と一致していなければなりません。このオブジェクトが存在する場合は、それが置き換えられます。複数のカタログ項目と一致する場合は、その要求は拒否されます。

例2: 配布リポジトリ文書のコピー

```
CPYDSTRPSO  GLBNAME(NETID *LOWEST *HIGHEST *ANY ROLLM)
             DLO(STATUS)  FLR(MNPS1/SALES.APR)  REPLACE(*NO)
```

このコマンドは、配布リポジトリからフォルダー・パスMNPS1/SALES.APR中の文書STATUSに文書をコピーします。この文書は指定されたグローバル名の検索基準と一致していなければなりません。この文書が存在する場合は、そのコピーは拒否されます。この文書が新規の場合は、それが作成されます。フォルダー・パスはすでに存在していなければなりません。複数のカタログ項目が検索基準と一致する場合は、その要求は拒否されます。

例3: 配布リポジトリ・フォルダーのコピー

```
CPYDSTRPSO  GLBNAME(NETID *LOWEST *HIGHEST *ANY ROLLM)
             FLR(MNPS1/SALES.APR)  REPLACE(*YES)
```

このコマンドは、配布リポジトリからフォルダーMNPS1/SALES.APRにフォルダーをコピーします。このフォルダーは指定されたグローバル名の検索基準と一致していなければなりません。フォルダーが存在する場合は、それは新規の情報で置き換えられます。フォルダーが存在しない場合は、それが作成されます。複数のカタログ項目が検索基準と一致する場合は、その要求は拒否されます。

例4: ルート・ファイル・システムへのストリーム・ファイルのコピー

```
CPYDSTRPSO  GLBNAME(STREAM FILE EXAMPLE)
             STMF('/DIR1/DIR2/DIR3/USRFILE')
             REPLACE(*YES)
```

このコマンドは、配布リポジトリに常駐するオブジェクトを、オブジェクト・パス名に指定されたストリーム・ファイルにコピーします。ストリーム・ファイルが存在する場合は、それは新規の情報で置き換えられます。ストリーム・ファイルが存在しない場合は、それが作成されます。複数のカタログ項目が検索基準と一致する場合は、その要求は拒否されます。

例5: ファイルのコピー時のメンバーの追加

```
CPYDSTRPSO  GLBNAME(ADD FILE MEMBERS)  OBJ(MYLIB/MYFILE)
             MBR(MYMBR)  REPLACE(*ADD)
```

このコマンドはMYLIB/MYFILE/MYMBRメンバーにレコードを追加します。

トップ

エラー・メッセージ： CPYDSTRPSO

*ESCAPE メッセージ

CPF2111

ライブラリー&1はすでに存在している。

CPF2112

&2のオブジェクト&1タイプ*&3がすでに存在している。

CPF2132

オブジェクト&1はライブラリー&2にすでに存在している。

CPF2146

置き換えられるオブジェクトとオブジェクト&1の所有者が同じでない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2232

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2233

ユーザー・プロファイル&1に対する削除権限をもっていない。

CPF2451

メッセージ待ち行列&1は別のジョブに割り振られている。

CPF2802

&2の取り出しファイル&1が見つからなかった。

CPF2813

&2のファイル&1が使用可能でない。

CPF2861

コピー先ファイル&1が&2に見つからないか、あるいは作成されなかった。

CPF2868

FROMファイルのメンバーまたはラベルが見つからないかまたは保留されています。

CPF3130

メンバー&2はすでに使用中である。

CPF3204

&2のファイル&1に必要なオブジェクトを見つけることができない。

CPF3218

&2のファイル&1に必要なオブジェクトを割り振ることができない。

CPF3731

ライブラリー&3の&2 &1を使用することができない。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3737

保管および復元データ域&1が見つからなかった。

CPF3738

保管または復元に使用した装置&1に損傷がある。

CPF3761

&3の&2 &1を使用することができない。

CPF3764

&3の&2 &1が見つからなかった。

CPF3767

装置&1が見つからない。

CPF3780

ライブラリー&1に指定したファイルが見つからない。

CPF3781

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF4128

ライブラリー&3ファイル&2のメンバーまたはプログラム装置&4に必要なオブジェクトを割り振ることができない。

CPF5729

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF5813

ライブラリー&2にファイル&1はすでに存在している。

CPF7302

ファイル&1はライブラリー&2に作成されなかった。

CPF81XX

損傷オブジェクト・エラー・メッセージ

CPF8A14

フォルダー&1中のタイプ&4の&2が&3に名前変更されなかった。

CPF8A23

フォルダー&1は空でない。

CPF8A75

フォルダー&1のアクセスが認可されていない。

CPF8A77

フォルダー&1が見つからない。

CPF8A78

フォルダー&1は使用中である。

CPF8A80

フォルダー&1の文書&2は使用中である。

CPF8A82

文書&2がフォルダー&1に見つからない。

CPF8A83

フォルダー&1の文書&2のアクセスが認可されていない。

CPF8A87

文書名&2が正しくない。

CPF8A88

フォルダー&1の文書&2でこの操作を使用することはできない。

CPF8A89

フォルダー&1の文書&2が論理的に損傷している。

CPF8A97

フォルダー名&1が正しくない。

CPF9005

この要求を完了するのに必要なシステム資源を使用することができない。

CPF9006

ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていない。

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF9012

&1の文書交換セッションの開始が正常に行なわれなかった。

CPF901F

*PUBLIC以外のユーザーに*AUTLが指定された。

CPF9029

所有者プロファイル&1を指定することはできない。

CPF9031

DLO(*ALL)を指定する権限がない。

CPF9032

文書交換セッションが開始されなかった。

CPF903A

文書またはフォルダーの活動が停止していないので、要求された操作を実行することができない。

CPF9048

&2文書ライブラリー・オブジェクトの所有権がプロファイル&1に変更された。&3は変更されませんでした。

CPF9073

文書ライブラリー・オブジェクト&1の機密保護の表示または変更権限がない。

CPF908A

要求元&1は登録されていない。

CPF908E

&1個のオブジェクトが変更されたが、&2個のオブジェクトは変更されなかった。

CPF909A

フォルダー&1の文書&2に損傷がある。

CPF9095

フォルダー&1に損傷がある。

CPF90B8

文書ライブラリー・オブジェクト&1の参照オブジェクトを指定する権限がない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9804

ライブラリー&3のオブジェクト&2が損傷している。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9831

装置&1を割り当てることができない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

MSS0111

配布リポジトリ・オブジェクトが使用可能でない。

MSS0114

配布カタログは認可されていない。

MSS0116

グローバル名の最大長を超えた。

MSS0117

グローバル名トークン&3が正しくない。理由コードは&4です。

MSS011B

配布カタログ項目が見つからない。

MSS011C

配布カタログが使用可能でない。

- MSS011D**
複数の配布カタログ項目が見つかった。
- MSS0123**
内部処理エラーが起こった。
- MSS0124**
配布カタログの管理時にエラー。
- MSS0125**
配布カタログが損傷している。
- MSS0151**
配布リポジトリ・オブジェクトはコピーされていない。
- MSS0153**
配布リポジトリ・オブジェクトが存在していない。
- MSS0154**
オブジェクト&1はすでに存在している。
- MSS0157**
リポジトリ・オブジェクトのコピーは認可されていない。
- MSS0158**
文書&1はすでに存在している。
- MSS0159**
メンバー&1はすでに存在している。
- MSS015D**
指定したグローバル名にはREPLACE(*YES)は正しくない。
- MSS015E**
ライブラリー名が必要である。
- MSS015F**
データはコピーされませんでした。
- MSS0161**
ライブラリーQTEMPは正しくない。
- MSS0162**
オブジェクト・タイプが一致しない。
- MSS0163**
配布リポジトリ・オブジェクトが見つからない。
- MSS0164**
ファイル&2のレコード長が短すぎる。
- MSS0165**
オブジェクトを圧縮解除することはできない。
- MSS0166**
フォルダーがすでに存在している。
- MSS0168**
リポジトリ・オブジェクトに複数のメンバーが入っている。

MSS016D

オブジェクトを圧縮解除することができません。

MSS016E

オブジェクト・タイプ&1ではMBR(*ALL)は正しくない。

MSS0175

REPLACE(*ADD)は物理ファイルにのみ有効である。

MSS019A

リポジトリリー・オブジェクトはコピーされていない。

MSS01D1

ライブラリーはQSYSでなければならない。

MSS01D3

オブジェクト・タイプが一致しない。

MSS01D6

グローバル名トークン&3の長さが正しくない。

MSS01D7

グローバル名トークン&3の値が正しくない。

MSS01D8

グローバル名が正しくない。

[トップ](#)

CCサーバー属性の表示 (DSPCCSA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

CCサーバー属性表示(DSPCCSA)コマンドによって、ノード構成ファイルの基本値として定義された属性値を表示することができます。ノード構成ファイルは、CCサーバーの導入値および操作値が保管されているファイルです。

このコマンドには特定のパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

DSPCCSAの例

DSPCCSA

このコマンドは、ノード構成ファイルの基本値として定義された属性値を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPCCSA

***ESCAPE** メッセージ

MSS0433

変更制御サーバー属性を表示することができない。

[トップ](#)

DSTカタログ項目の表示 (DSPDSTCLGE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DSTカタログ項目の表示(DSPDSTCLGE)コマンドによって、ユーザーは配布カタログ項目に関する情報を表示することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
GLBNAME	グローバル名	要素リスト	オプション、位置 1
	要素 1: グローバル名トークン1	文字値, *ANY , *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 2: グローバル名トークン2	文字値, *ANY , *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 3: グローバル名トークン3	文字値, *ANY , *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 4: グローバル名トークン4	文字値, *ANY , *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 5: グローバル名トークン5	文字値, *ANY , *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 6: グローバル名トークン6	文字値, *ANY , *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 7: グローバル名トークン7	文字値, *ANY , *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 8: グローバル名トークン8	文字値, *ANY , *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 9: グローバル名トークン9	文字値, *ANY , *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 10: グローバル名トークン10	文字値, *ANY , *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
OUTPUT	出力	* , *PRINT, *OUTFILE	オプション
DETAIL	明細	*BASIC , *FULL	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE , *ADD	

グローバル名トークン1 (GLBNAME)

表示するカタログ項目のリストを見つけるために使用されるグローバル名のトークンを指定します。

トークン1として指定できる値は次の通りです。

***ANY** 対応するトークン値は無視されます。

***HIGHEST**

最高位の対応するトークン値をもつカタログ項目が選択されます。

***LOWEST**

最低位の対応するトークン値をもつカタログ項目が選択されます。

***NETID**

最初のグローバル名トークン値は、ネットワーク属性からコマンドによって生成されたネットワークIDです。

***SERVER**

このトークンは変更要求活動内に&SERVERの値で記憶され、オブジェクトの配布時にCCサーバーの短縮名によって置き換えられます。

***TARGET**

このトークンは変更要求活動内に&TARGETの値で記憶され、オブジェクトの配布時にターゲットの短縮名によって置き換えられます。

***MDDATE**

このトークンは変更要求活動内に&DATEの値で記憶され、配布時にオブジェクトの最終変更日付によって置き換えられます。

***MDTIME**

このトークンは変更要求活動内に&TIMEの値で記憶され、配布時にオブジェクトの最終変更時刻によって置き換えられます。

グローバル名トークン

グローバル名の最初のトークンを指定してください。

トークン2から10として指定できる値は次の通りです。

***ANY** 対応するトークン値は無視されます。

***HIGHEST**

最高位の対応するトークン値をもつカタログ項目が選択されます。

***LOWEST**

最低位の対応するトークン値をもつカタログ項目が選択されます。

***NETID**

グローバル名トークンN値はネットワークIDです。この値はネットワーク属性から生成されます。

***CPNAME**

グローバル名トークン値は制御点名です。この値はネットワーク属性から生成されます。

***SERVER**

このトークンは変更要求活動内に&SERVERの値で記憶され、オブジェクトの配布時にCCサーバーの短縮名によって置き換えられます。

***TARGET**

このトークンは変更要求活動内に&TARGETの値で記憶され、オブジェクトの配布時にターゲットの短縮名によって置き換えられます。

***MDDATE**

このトークンは変更要求活動内に&DATEの値で記憶され、配布時にオブジェクトの最終変更日付によって置き換えられます。

***MDTIME**

このトークンは変更要求活動内に&TIMEの値で記憶され、配布時にオブジェクトの最終変更時刻によって置き換えられます。

グローバル名トークン

グローバル名のトークンを指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元のワークステーションに表示するのか、ジョブのスパール出力で印刷するのか、それともデータベース・ファイルに送るのかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

***OUTFILE**

出力は、OUTFILEパラメーターに指定されたデータベース・ファイルに送られます。DETAILキーワードに指定された値に関係なくすべてのデータが出力ファイルに書き出されます。

[トップ](#)

明細 (DETAIL)

各カタログ項目にどのセットの情報が表示されるかを指定します。このパラメーターを使用できるのは、OUTPUT(*PRINT)が指定された場合だけです。

***BASIC**

検索で見つかったグローバル名のリストが印刷されます。

*FULL 検索で見つかったすべてのカタログ項目情報が印刷されます。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

表示出力が送られるデータベース・ファイルの修飾名を指定します。出力ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって指定のライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。

出力ファイルの名前は、次の1つのライブラリー値で修飾することができます。

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

出力ファイル名

使用されるデータベースの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

表示の出力が送られるデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。メンバーがすでに存在している場合に*REPLACEを指定すると、システムはそのメンバーを消去して、新しいレコードを追加します。メンバーが存在せず、メンバー名を指定しなかった場合には、システムはOUTFILEパラメーターに指定されたファイルの名前で新しいメンバーを作成します。メンバー名を指定したが、そのメンバーが存在しない場合には、システムがそのメンバーを作成します。

出力を受け取るメンバーとして指定できる値は次の通りです。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーが出力を受け取ります。

メンバー名

出力を受け取るメンバーの名前を指定してください。

メンバーに対して実行する操作として指定できる値は次の通りです。

***REPLACE**

システムは既存のメンバーを消去して、新しいメンバーを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

DSPDSTCLGEの例

例1: すべてのカタログ項目の表示

```
DSPDSTCLGE
```

このコマンドは、すべてのカタログ項目を表示します。

例2: グローバル・カタログ項目の表示

```
DSPDSTCLGE  GLBNAME(ABACO *HIGHEST ZONEA *LOWEST)  OUTPUT(*)
```

このコマンドは、選択したグローバル名のカタログ項目を表示します。

例3: カタログ情報の保管

```
DSPDSTCLGE  GLBNAME(ABACO *HIGHEST LOGO *LOWEST)
```

```
OUTPUT(*OUTFILE)  OUTFILE(MYLIB/MYFILE)
```

このコマンドは、選択基準と一致するすべてのカタログ項目のすべての情報を、出力ファイル MYLIB/MYFILEに送信します。

例4: カタログ項目情報の表示

この例は、*SERVER, *TARGET, *MDDATEおよび*MDTIMEトークンでカタログされた項目のカタログ項目情報を表示します。

```
DSPDSTCLGE  GLBNAME(CMPNY1 SALES *SERVER *TARGET *MDDATE  
              *MDTIME)  OUTPUT(*)
```

このコマンドは、グローバル名CMPNY1 SALES &SERVER &TARGET &DATE &TIMEのカタログ項目情報を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPDSTCLGE

*ESCAPE メッセージ

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

MSS0114

配布カタログは認可されていない。

MSS0116

グローバル名の最大長を超えた。

MSS0117

グローバル名トークン&3が正しくない。理由コードは&4です。

MSS011B

配布カタログ項目が見つからない。

MSS011C

配布カタログが使用可能でない。

MSS0123

内部処理エラーが起こった。

MSS0124

配布カタログの管理時にエラー。

MSS0125

配布カタログが損傷している。

MSS0909

変更制御サーバー・データベースのアクセス中にエラー。

[トップ](#)

管理対象システムの属性表示 (DSPMGDSYSA)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

管理下のシステムの属性表示(DSPMGDSYSA)コマンドによって、分散管理構成属性の現在の値が表示されます。

この属性によって、ユーザーは管理下のシステムによって受け入れられる活動および活動が実行される時のユーザー・プロファイルを制御することができます。

このコマンドにはパラメーターがありません。

制約事項:

1. 表示コマンドを使用するためには*JOBCTL権限が必要です。
2. このコマンドの共通認可は*EXCLUDEです。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

DSPMGDSYSAの例

DSPMGDSYSA

このコマンドは、現在管理対象のシステム属性を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPMGDSYSA

*ESCAPE メッセージ

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

MSS0415

管理対象システムの属性が見つからないか、あるいは損傷している。

[トップ](#)

受信コマンドの表示 (DSPRCVCMD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

受信コマンドの表示(DSPRCVCMD)コマンドは、管理下のシステムで活動状態のすべてのリモート・コマンド要求を表示します。

制約事項

このコマンドの共通認可は*USEです。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*、*PRINT	オプション

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、そのコマンドを入力したワークステーションの画面に表示するか、あるいはジョブのスプール印刷装置出力と一緒に印刷するかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面上に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスプール印刷装置出力と一緒に印刷されます。

[トップ](#)

DSPRCVCMDの例

DSPRCVCMD OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、管理対象のシステムで活動状態のすべてのリモート・コマンド要求をスプール・ファイルに表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPRCVCMD

なし

[トップ](#)

分散管理の終了 (ENDMGDSYS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

分散管理の終了(ENDMGDSYS)コマンドは、現在実行中のすべての活動が完了した後に、管理下のシステム・ジョブを終了します。

制約事項

1. 終了コマンドを使用するためには、ユーザーに*JOBCTL権限が必要です。
2. このコマンドの共通認可は*EXCLUDEです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	終了方法	*CNTRLD, *IMMED	オプション、位置 1
DELAY	遅延時間(*CNTRLDの場合)	1-999999, *NOLIMIT	オプション、位置 2

トップ

終了方法 (OPTION)

管理下のシステム・ジョブが制御された方式で終了するか、あるいはただちに終了するかを指定します。

*CNTRLD

管理下のシステム・ジョブは制御された方式で終了することを指定します。

*IMMED

管理下のシステム・ジョブはただちに終了することを指定します。実行中のプログラムには、クリーンアップを実行する時間はありません。データが部分的に更新されている場合には、このオプションによって望ましくない結果となることがあります。したがって、このオプションは制御された終了が正常に実行されない場合にのみ使用してください。

トップ

遅延時間(*CNTRLDの場合) (DELAY)

終了が即時に行われるまでの遅延時間を指定します。

*NOLIMIT

管理下のシステム・ジョブの処理は、現在の活動の処理が完了するまで続行されます。

遅延時間

管理下のシステム・ジョブは遅延時間の後にただちに終了することを指定します。

[トップ](#)

ENDMGDSYSの例

例1: 管理対象のシステム・ジョブの終了

ENDMGDSYS

このコマンドは、現在実行中のすべての活動が完了した後に、管理対象のシステム・ジョブを終了します。

例2: 管理対象のシステム・ジョブの即時終了

ENDMGDSYS OPTION(*IMMED)

このコマンドは、管理対象のシステム・ジョブをただちに終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDMGDSYS

*ESCAPE メッセージ

CPF3CD9

この時点で要求した機能を実行することはできない。

CPF3CDA

登録機能リポジトリを使用することができない。

CPF81XX

損傷オブジェクト・エラー・メッセージ

CPF90FF

要求された操作を実行するためには、*JOBCTL特殊権限が必要である。

CPF9872

ライブラリー&2のプログラムまたはサービス・プログラム&1が終了した。理由コードは&3です。

MSS0059

内部オブジェクトが見つからないか、あるいは損傷している。

MSS005B

記憶域限界を超えた。

MSS0064

内部オブジェクトが見つからないか、あるいは損傷している。

MSS0066

内部的な処理エラーが起こった。

MSS0067

内部オブジェクトを割り振ることができない。

MSS0321

分散管理/400が活動状態でない。

[トップ](#)

管理機能サービスの終了 (ENDMGRSRV)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

管理機能サービスの終了(ENDMGRSRV)コマンドは、管理下のシステムにリモート・コマンドを送信できる機能を終了し、ノードおよびクライアントからトポロジー情報を収集できる機能を終了します。

制約事項:

1. 終了コマンドを使用するためには、ユーザーに*JOBCTL権限が必要です。
2. このコマンドの共通認可は*EXCLUDEです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SERVICE	終了するサービス	単一値: *ALL その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *RMTCMD, *TOPOLOGY	オプション, 定位置 1
OPTION	終了方法	*CNTRLD , *IMMED	オプション, 定位置 2
DELAY	遅延時間(*CNTRLDの場合)	1-999999, *NOLIMIT	オプション, 定位置 3

トップ

終了するサービス (SERVICE)

終了するサービスを指定します。1つまたは複数の値を入力することができます。

***ALL** すべての管理機能サービスの終了を指定します。

***TOPOLOGY**

ノードおよびクライアントからトポロジー情報を収集できる機能を終了することを指定します。

***RMTCMD**

管理下のシステムにリモート・コマンドを送信する機能の終了を指定します。

トップ

終了方法 (OPTION)

サービスを制御された方法で、あるいはこれをただちに終了するかを指定します。

***CNTRLD**

サービスを制御された方法で終了することを指定します。

***IMMED**

サービスをただちに終了することを指定します。

[トップ](#)

遅延時間(*CNTRLDの場合) (DELAY)

サービスをただちに終了する前の遅延時間を秒数で指定します。

***NOLIMIT**

現行の活動処理を完了するまで、その処理が続行することを指定します。

遅延時間

指定された遅延時間の後で、サービスをただちに終了することを指定します。有効な値の範囲は1-999999です。

[トップ](#)

ENDMGRSRVの例

例1: 中央側システム・サービスの終了

```
ENDMGRSRV SERVICE(*ALL)
```

このコマンドは、中央側システム・サービスを終了します。

例2: トポロジー情報サービス・ジョブの終了

```
ENDMGRSRV SERVICE(*TOPOLOGY) OPTION(*IMMED)
```

このコマンドは、ノードおよびクライアントからトポロジー情報を収集できる機能を終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDMGRSRV

***ESCAPE メッセージ**

MSS0601

要求された操作には*JOBCTL特殊権限が必要である。

MSS0730

&1コマンドでエラーが見つかった。

[トップ](#)

導入可能オブジェクトのパッケージ (PKGINSOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

導入可能オブジェクト・パッケージ(PKGINSOBJ)コマンドは、ファイル・システムの1つまたは複数のオブジェクトのコピーおよび導入可能オブジェクト内に作成しなければならない対応するターゲット・ライブラリー、フォルダー、またはパスの名前を保管します。また、配布カタログ項目も作成して、保管されたオブジェクトが入っている導入可能オブジェクトを配布リポジトリーにロードします。

制約事項:

1. GLBNAMEは、次の形式の最大9個までのトークンから構成されます。
 - 少なくとも3つのトークンを指定しなければなりません。
 - 1つのトークンだけにREF値を入れなければならないが、2番目から8番目までのいずれかのトークンでなければなりません。
 - REFトークンにはリフレッシュ・レベルのトークンが続けられなければなりません。このトークンには0-9の文字だけが入っていなければならないが、グローバル名の最後のトークンでなければなりません。
 - トークン値MEM, LIB, OBJ, UPD, FIX,またはCVRLTRを指定することはできません。
2. QSYS.LIBファイル・システムからのオブジェクトと一緒にパッケージされる導入可能オブジェクトに他のファイル・システムからのオブジェクトを入れることはできません。
3. QDLSファイル・システムからのオブジェクトと一緒にパッケージされる導入可能オブジェクトに他のファイル・システムからのオブジェクトを入れることはできません。
4. このコマンドは共通認可*EXCLUDEで出荷されます。
5. このコマンドを実行するユーザーは、パッケージするオブジェクトに対するSAVXXXコマンド、ADDDSTCLGEコマンド、ファイル削除(DLTF)コマンド、保管ファイル作成(CRTSAVF)コマンドの実行に必要な権限およびそれらに必要な権限を持っていないとできません。
6. OBJパラメーターには少なくとも1つの*INCLUDE値を指定しなければなりません。
7. /QSYS.LIBに関係する名前の場合：
 - a. OBJが持つ必要がある名前は1つだけです。
 - b. OBJ (オブジェクト・パス名) は次のいずれかでなければなりません。
 - ('/QSYS.LIB/LIBNAME.LIB')
 - ('/QSYS.LIB/LIBNAME.LIB/*')
 - ('/QSYS.LIB/LIBNAME.LIB/*.TYPE')
 - ('/QSYS.LIB/LIBNAME.LIB/OBJNAME.TYPE')
 - ('/QSYS.LIB/LIBNAME.LIB/OBJNAME.FILE/*')
 - ('/QSYS.LIB/LIBNAME.LIB/OBJNAME.FILE/*.MBR')
 - ('/QSYS.LIB/ALIB.LIB/ANOBJ.FILE/AMBR.MBR')
 - ('/QSYS.LIB/*.TYPE')
 - ('/QSYS.LIB/OBJNAME.TYPE')

- ('/QSYS.LIB/FILENAME.FILE/*')
 - ('/QSYS.LIB/FILENAME.FILE/*.MBR')
 - ('/QSYS.LIB/FILENAME.FILE/MEMBERNAME.MBR')
- c. .TYPEは、SAVOBJおよびRSTOBJコマンドによってサポートされるオブジェクト・タイプでなければなりません。
- d. .LIBNAMEは、LIBNAME.LIBが名前の最後の構成要素である場合にはQSYS, QDOC..., QTEMP, QSPL, QSRV, QRECOVERY,またはQRPLOBJにすることはできません。
- e. OBJ (INSTALL-TO)は、*SAMEまたは'/QSYS.LIB/LIBNAME.LIB'でなければなりません。
- f. SUBTREEは*ALLでなければなりません。
8. /QDLSのみに関係する名前の場合：
- OBJが持つ必要がある名前は1つだけです。
 - OBJ (OBJECT-PATH-NAME INSTALL-TO)およびSUBTREEは次のいずれかでなければなりません。
 - ('/QDLS/PATH/FOLDERNAME' '/QDLS/PATH/FOLDERNAME') SUBTREE(*ALL)
 - ('/QDLS/PATH/DOCUMENTNAME' '/QDLS/PATH/DOCUMENTNAME') SUBTREE(*OBJ)
9. 他のファイル・システムに関係する名前の場合：
- OBJにQSYS.LIBまたはQDLSファイル・システムを入れることはできません。
10. リンクに関係する名前の場合：
- オブジェクトをパッケージするためにリンクを使用する場合には、導入可能オブジェクトを導入する管理下のシステムに同じオブジェクト名を参照するリンクが存在しなければなりません。管理下のシステムにリンクが存在しない場合には、ユーザーはリンクもパッケージしなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
GLBNAME	グローバル名	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: グローバル名トークン1	文字値, *NETID	
	要素 2: グローバル名トークン2	文字値, *DATE, *TIME, *NETID, *CPNAME	
	要素 3: グローバル名トークン3	文字値, *DATE, *TIME, *NETID, *CPNAME	
	要素 4: グローバル名トークン4	文字値, *DATE, *TIME, *NETID, *CPNAME	
	要素 5: グローバル名トークン5	文字値, *DATE, *TIME, *NETID, *CPNAME	
	要素 6: グローバル名トークン6	文字値, *DATE, *TIME, *NETID, *CPNAME	
	要素 7: グローバル名トークン7	文字値, *DATE, *TIME, *NETID, *CPNAME	
	要素 8: グローバル名トークン8	文字値, *DATE, *TIME, *NETID, *CPNAME	
	要素 9: グローバル名トークン9	文字値, *DATE, *TIME, *NETID, *CPNAME	
OBJ	オブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: 名前	パス名, *	
	要素 2: 組み込みまたは除外	* INCLUDE , *OMIT	
	要素 3: 導入先	パス名, * SAME	
SUBTREE	ディレクトリー・サブツリー	* ALL , *DIR, *OBJ	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	* CURRENT , *PRV, V5R1M0, V5R2M0, V5R3M0	オプション
AUTL	権限リスト	名前, QCQRPSAUTL	オプション

トップ

グローバル名 (GLBNAME)

グローバル名のトークン値を指定します。グローバル名は、システム・ネットワーク体系(SNA) ネットワーク中でオブジェクトの認識に使用される名前です。グローバル名は最大65 -N桁の長さにするができます。Nはトークンの数です。最大9個のトークンを指定することができます、それぞれのトークンの長さは最大16桁にすることができます。

有効なトークンは大文字のA-Zと数字の0-9で構成されます。特殊文字#, ¥,または@を使用することができません。多言語ネットワークでは、特殊文字を使用すると言語の変換で無効な値になることがあります。特殊文字の使用はお勧めできません。

要素1: トークン1

*NETID

最初のグローバル名トークン値は、ネットワーク属性からコマンドによって生成されたネットワークIDです。

グローバル名トークン1

グローバル名の最初のトークンを指定してください。最初のトークンは登録済みの企業IDまたはネットワークIDにしてください。

要素2-9: トークン2-9

*DATE

グローバル名トークン値を現在の日付として識別します。この値は、Y1992M04D10の形式のシステム値から生成されます。

***TIME** グローバル名トークン値を現在の時刻として識別します。この値は、H13M30S20の形式のシステム値から生成されます。

*NETID

グローバル名トークンN値をネットワークIDとして識別します。この値はネットワーク属性から生成されます。

*CPNAME

グローバル名トークン値を制御点名として識別します。この値はネットワーク属性から生成されません。

グローバル名トークンN

グローバル名のトークンを指定してください。

[トップ](#)

オブジェクト (OBJ)

パッケージするオブジェクトおよび導入場所を指定します。最大300のオブジェクト・パターンを指定することができます。

要素1: オブジェクト名

****** 現行ディレクトリーのすべてのオブジェクトが保管されます。

オブジェクト・パス名

多くの名前と一致させることができるオブジェクト・パス名またはパターンを指定してください。パス名は最大500桁までにすることができます。

要素2: 組み込みまたは除外

2番目の要素は、パターンに一致する名前を操作に組み込むか除外するかを指定します。

*INCLUDE

*OMITの指定によって一時変更されない限り、オブジェクト名のパターンに一致するオブジェクトの組み込みを指定します。

***OMIT** オブジェクト名のパターンに一致するオブジェクトを組み込まないように指定します。これは、前に選択されたパターンのサブセットの除外に使用するものとして*INCLUDEの指定を一時変更します。

要素3: 導入先

オブジェクトを導入する場所を指定してください。

***SAME**

オブジェクトが、パッケージされた時の同じ名前でも導入されるように指定します。2番目の要素に*OMITが指定されている場合には無視されます。

導入先 オブジェクトが導入される多くの名前と一致させることができるようにオブジェクトのパス名またはパターンを指定します。要素1にパターンが指定されている場合には、新しい名前は、パターンに一致するオブジェクトの導入先のディレクトリーでなければなりません。2番目の要素に*OMITが指定されている場合には無視されます。パス名は最大5000桁までにすることができます。

[トップ](#)

ディレクトリー・サブツリー (SUBTREE)

保管操作にディレクトリーのサブツリーが含まれるかどうかを指定します。

***ALL** オブジェクト名のパターンに一致するそれぞれのディレクトリーのサブツリー全体が含まれます。

***DIR** オブジェクト名のパターンに一致するそれぞれのディレクトリーの最初のレベルのオブジェクトが含まれます。

***OBJ** オブジェクト名のパターンに正確に一致するオブジェクトだけが含まれます。オブジェクト名のパターンがディレクトリーを指定している場合には、そのディレクトリー内のオブジェクトは含まれません。

注:

SUBTREEパラメーターに*OBJが指定されていて導入先が*SAMEの場合には、導入を行うためには管理下のシステムにオブジェクト名のパターンが存在しなければなりません。

[トップ](#)

ターゲット・リリース (TGTRLS)

オブジェクトを使用しようとしているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザー・システムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。

***PRV** オブジェクトは、前のリリースで使用されます。

リリース・レベル

リリース・レベルはVXRXXMXの形式で指定します。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以後のリリースのオペレーティング・システムを導入したシステムで使用することができます。有効な値は現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルと、新しいそれぞれのリリースの変更によって異なります。

[トップ](#)

権限リスト (AUTL)

オブジェクトの権限リストの名前を指定します。

QCQRPSAUTL

SNA/FS権限リスト。

権限リスト名

権限リストの名前。権限リストはすでに存在していなければなりません。

[トップ](#)

PKGINSOBJの例

例1: 現行ディレクトリーおよびサブディレクトリーのすべてのオブジェクトのパッケージ化

```
PKGINSOBJ  GLBNAME(PACKAGE CURRENT DIRECTORY REF 001)
            OBJ(('*' *INCLUDE *SAME))
            SUBTREE(*ALL) TGTRLS(*CURRENT) AUTL(QCQRPSAUTL)
```

このコマンドは、現行ディレクトリーと、そのサブディレクトリーのすべてのオブジェクトをパッケージします。導入時には、導入要求を実行する、そのユーザーの現行ディレクトリーにパッケージ化されたオブジェクトが作成されます。省略時のOBJ値を使用することができます。現行ディレクトリーはパッケージ化中に解決されます。

例2: 現行ディレクトリーのすべてのオブジェクトのパッケージ化

```
PKGINSOBJ  GLBNAME(PACKAGE CURRENT DIRECTORY NO SUBDIR REF 002)
            OBJ(('*' *INCLUDE *SAME)) SUBTREE(*OBJ)
            TGTRLS(*CURRENT) AUTL(QCQRPSAUTL)
```

このコマンドは、現行ディレクトリー（そのサブディレクトリーではない）のすべてのオブジェクトをパッケージします。現行ディレクトリーはパッケージ化中に解決されます。オブジェクトはパス名に指定されたディレクトリーに導入され、これは、導入時に管理対象のシステムに事前に存在しなければなりません。

例3: 指定されたディレクトリーのすべてのオブジェクトのパッケージ化

```
PKGINSOBJ  GLBNAME(PACKAGE A DIRECTORY OMITTING REF 001)
            OBJ('/A' *INCLUDE *SAME)) ('/A/B/C' *OMIT))
            SUBTREE(*ALL) TGTRLS(*CURRENT) AUTL(QCQRPSAUTL)
```

このコマンドは、ディレクトリー/Aとそのサブディレクトリーのすべてのオブジェクトをパッケージします。ディレクトリー/A/B/Cのオブジェクトは除外されます。ディレクトリーがまだ存在しない場合に、オブジェクトが導入されると、ディレクトリー/Aが作成されて、そのサブディレクトリーとそれらのオブジェクトが入れられます。

例4: すべてのファイルのパッケージ化

```
PKGINSOBJ  GLBNAME(PACKAGE ALL FILES IN MYLIB REF 003)
            OBJ('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/*.FILE' *INCLUDE *SAME))
            SUBTREE(*ALL) TGTRLS(*CURRENT) AUTL(QCQRPSAUTL)
```

このコマンドは、MYLIBのすべてのファイルをパッケージします。これを導入する時に、ライブラリーMYLIBが作成されて、そのオブジェクトが入れられます。

例5: あるライブラリーのオブジェクトのパッケージ化と、別のライブラリーへのオブジェクトの導入

```
PKGINSOBJ  GLBNAME(RENAMING OBJECTS WHEN INSTALLING REF 001)
```

```
OBJ(('MYDIR/X.PGM' *INCLUDE 'YOURDIR/Y.PGM'))
SUBTREE(*ALL) TGTRLS(*PRV) AUTL(QCQRPSAUTL)
```

このコマンドはプログラムXをMYDIRからパッケージして、Yの名前でそのオブジェクトをYOURDIRに導入します。導入することになるシステムは前のリリースです。

例6: 別のファイル・システムのオブジェクトのパッケージ化

```
PKGINSOBJ  GLBNAME(PACKAGE A FILE REF 01)
            OBJ(('MYDIR/MYFILE' *INCLUDE *SAME))
            SUBTREE(*ALL) TGTRLS(*CURRENT) AUTL(QCQRPSAUTL)
PKGINSOBJ  GLBNAME(PACKAGE A DATABASE REF 01)
            OBJ(('QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYFILE.FILE' *INCLUDE
                *SAME)) SUBTREE(*ALL) TGTRLS(*CURRENT)
            AUTL(QCQRPSAUTL)
PKGINSOBJ  GLBNAME(PACKAGE A DOCUMENT REF 03)
            OBJ(('QDLS/MYFLR/MYDOC' *INCLUDE *SAME))
            SUBTREE(*OBJ) TGTRLS(*CURRENT) AUTL(QCQRPSAUTL)
```

このコマンドは、ストリーム・ファイルMYFILE、データベース・ファイルMYFILE、および文書MYDOCをパッケージします。

下記の例では、以下のディレクトリーを考慮する必要があります。

```
/A/B
/A/C
/A/D
/A/A1
/A/A1/E
/A/A1/F
/A/A1/G
/A/A1/A2
/A/A1/A2/H
/A/A1/A2/I
/A/A1/A2/J
```

例7: 前のパス名からのすべてのオブジェクトのパッケージ化

```
PKGINSOBJ  GLBNAME(PACKAGE ALL OBJECTS REF 001)
            OBJ(('./*' *INCLUDE *SAME))
            SUBTREE(*ALL) TGTRLS(*CURRENT) AUTL(QCQRPSAUTL)
```

このコマンドは、前のパス名からのすべてのオブジェクトをパッケージします。

例8: 各ディレクトリーの第1レベルのオブジェクトのすべてのパッケージ化

```
PKGINSOBJ  GLBNAME(PACKAGE FIRST LEVEL OBJECTS REF 001)
            OBJ(('/' *INCLUDE *SAME))
            SUBTREE(*DIR) TGTRLS(*CURRENT) AUTL(QCQRPSAUTL)
```

このコマンドは、オブジェクト名のパターンと一致する、各ディレクトリーの第1レベルのオブジェクトをすべてパッケージします。パッケージされるオブジェクトは次の通りです。

```
/A/B
/A/C
/A/D
/A/A1
/A/A1/E
/A/A1/F
/A/A1/G
/A/A1/A2
```

例9: ディレクトリーのオブジェクトのみのパッケージ化

```
PKGINSOBJ  GLBNAME(PACKAGE ONLY OBJECTS REF 001)
            OBJ((' /A' *INCLUDE *SAME))
            SUBTREE(*OBJ)  TGTRLS(*CURRENT)  AUTL(QCQRPSAUTL)
```

このコマンドは、ディレクトリーのオブジェクトのみをパッケージします。パッケージされるオブジェクトは次の通りです。

```
/A/B
/A/C
/A/D
/A/A1
```

例10: ユーザーOTHERUSERホーム・ディレクトリーのすべてのオブジェクトのパッケージ化

```
PKGINSOBJ  GLBNAME(PACKAGE OTHER HOME DIR REF 01)
            OBJ('/HOME/OTHERUSER' *INCLUDE *SAME))
            SUBTREE(*ALL)  TGTRLS(*CURRENT)  AUTL(QCQRPSAUTL)
```

このコマンドは、OTHERUSERホーム・ディレクトリーからのすべてのオブジェクトをパッケージします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: PKGINSOBJ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF3781

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3826

OBJパラメーターに*INCLUDEオブジェクトが必要である。

CPF382C

QSYSファイル・システムについてのOBJパラメーター値が正しくない。

CPF382F

QDLSファイル・システムに対してOBJパラメーター値が正しくない。

CPF5702

ファイルがDDMファイルでないか、あるいは見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9870

タイプ*&5のオブジェクト&2はライブラリー&3にすでに存在している。

MSS0114

配布カタログは認可されていない。

MSS0116

グローバル名の最大長を超えた。

MSS0117

グローバル名トークン&3が正しくない。理由コードは&4です。

MSS011B

配布カタログ項目が見つからない。

MSS0123

内部処理エラーが起こった。

MSS0124

配布カタログの管理時にエラー。

MSS0125

配布カタログが損傷している。

MSS0133

配布カタログ項目の追加は認可されていない。

MSS0136

グローバル名はすでに存在している。

MSS02EF

ユーザー・プロファイル&1には認可されていない。

MSS02F0

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

MSS02F1

ユーザー・プロファイル&1をアクセスすることができない。

MSS02F6

導入可能オブジェクトがパッケージされていない。

MSS02F7

導入可能オブジェクトのグローバル名が正しくない。

MSS02F8

&1個のオブジェクトがパッケージされました。&2個のオブジェクトはパッケージされていません。

MSS02F9

複数ファイル・システムでパラメーターが正しくない。

MSS02FA

QSYSを指定した時には、SUBTREEが*ALLでなければならない。

[トップ](#)

DST用パッケージ・プロダクト (PKGPRDDST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DST用パッケージ・プロダクト(PKGPRDDST)コマンドは、プログラムを電子的に配布できるように、そのプロダクトを構成しているオブジェクトのコピーを保管ファイルに保管します。そのプロダクトの配布カタログの項目が作成されて、パッケージされたプロダクトが配布リポジトリにロードされます。

制約事項:

1. このコマンドは共通*EXCLUDE権限と一緒に出荷されます。
2. このコマンドを実行するためには、パッケージされるプロダクトでライセンス・プログラム保管 (SAVLICPGM)コマンドを実行するために必要な権限が必要です。
3. このコマンドには、SAVLICPGMコマンドと同じ制約事項があります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PRDID	プロダクトID	文字値	必須, 定位置 1
RLS	リリース・レベル	文字値, *ONLY	オプション
OPTION	プロダクト・オプション	1-99, *BASE	オプション
LODTYPE	プロダクト・ロード・タイプ	*ALL, *CODE, *LNG	オプション
LODID	ロードID	文字値, *CODE, *ALL	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	*CURRENT, *PRV, V5R1M0, V5R2M0, V5R3M0	オプション
SAVF	保管ファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
AUTL	権限リスト	文字値, QCQRPSAUTL	オプション
REPLACE	置き換え	*NO, *YES	オプション

[トップ](#)

プロダクトID (PRDID)

保管するプロダクトの7桁のIDを指定します。

[トップ](#)

リリース・レベル (RLS)

プロダクトが保管されるバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定します。

***ONLY**

プロダクト・オプションでは、導入されるバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルは1つだけです。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRXYの形式で指定します。ここで、VXはバージョン番号、RXはリリース番号で、MYはモディフィケーション番号です。Xの有効な範囲は0-9です。Yの有効な範囲は0-9およびA-Zです。

[トップ](#)

プロダクト・オプション (OPTION)

プロダクトID (PRDID)パラメーターで識別されるプロダクトの任意指定のどの部分を保管するかを指定します。

***BASE**

プロダクトの基本部分だけが保管されます。

プロダクト・オプション番号

保管中のプロダクト・ロードのオプション番号を指定します。有効な値の範囲は1-99です。

[トップ](#)

プロダクト・ロード・タイプ (LODTYPE)

保管中のプロダクト・ロード・オブジェクトを指定します。

***ALL** LODIDパラメーターに指定されたコードおよび言語オブジェクトが保管されます。

***CODE**

このプロダクト・ロードと関連したオブジェクトが保管されます。

***LNG** LODIDパラメーターで識別された国別言語バージョン(NLV)と関連したオブジェクトが保管されます。

[トップ](#)

ロードID (LODID)

保管操作に使用されるロードIDを指定します。

***ALL** このプロダクト・オプションのすべての言語が保管されます。

***CODE**

コード・ロードが使用されます。

プロダクト・ロードID

使用されるコード・ロードを指定します。LODTYPE(*LNG)またはLODTYPE(*ALL) が指定された場合には、ロードIDはIBMの有効な国別言語バージョンであり、29XX の形式で指定しなければなりません。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

オブジェクトを使用したいオペレーティング・システムのリリースを指定します。

***CURRENT**

このオブジェクトは、現在ユーザー・システムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。システムでV5R3M0を実行中の場合には、*CURRENTは、V5R3M0が導入されたシステムでオブジェクトを使用しようとしていることを意味します。また、オブジェクトはオペレーティング・システムのこれ以降のリリースを導入したシステムで使用することもできます。

リリース・レベル

リリース・レベルはVXRXXMXの形式で指定します。オブジェクトは、指定されたリリース、または導入されているオペレーティング・システムのそれ以降のリリースのシステムで使用されます。

有効な値は現行のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、それぞれの新しいリリースによっても変わります。

トップ

保管ファイル (SAVF)

配布用にパッケージされたプロダクトを入れる保管ファイルの修飾名を指定します。

*NONE配布用のプロダクトをパッケージするための、プロダクトを入れる保管ファイルは提供されません。

オブジェクトの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

保管ファイル名

配布用にパッケージされたプロダクトを入れる保管ファイルの名前を指定します。

トップ

権限リスト (AUTL)

配布リポジトリ・オブジェクトの権限リストの名前を指定します。このパラメーターが有効なのは、SAVF(*NONE)を指定した場合だけです。

QCQRPSAUTL

省略時の権限リストが使用されます。

権限リスト名

既存の権限リストの名前を指定します。

[トップ](#)

置き換え (REPLACE)

配布リポジトリにパッケージされたプロダクトがすでに存在している場合に、既存のパッケージ・プロダクトを置き換えるかどうかを指定します。

***NO** 既存のパッケージ・プロダクトは置き換えられません。

***YES** 既存のパッケージ・プロダクトは置き換えられます。

[トップ](#)

PKGPRDDSTの例

例1: 配布の基本オプションのパッケージ化

```
PKGPRDDST PRDID(5722PT1) OPTION(*BASE)
```

このコマンドは、コードと言語の両方の部分について、パフォーマンス・ツールのライセンス・プログラムのBASEオプションを保管します。その後、次の配布カタログ項目を作成して、保管されたプロダクトを配布リポジトリに保管します。

```
I3IBM1 AS400 5722PT1 V5R2M0 BASE ALL ALL REF 001 V5R2M0
```

例2: プログラム・オブジェクトのパッケージ化

```
PKGPRDDST PRDID(ACCOUNT) RLS(V5R2M0) LODTYPE(*CODE)
LODID(*CODE)
```

このコマンドは、配布用にV5R2M0 ACCOUNTプロダクトをパッケージして、そのプロダクトのプログラム・オブジェクトだけを保管します。また、このコマンドは、次の配布カタログ項目を作成して、保管されたプロダクトを配布リポジトリに保管します。

```
I3IBM1 AS400 ACCOUNT V5R2M0 BASE CODE CODE REF 001 V5R2M0
```

例3: 言語オブジェクトのパッケージ化

```
PKGPRDDST PRDID(ACCOUNT) LODTYPE(*LNG) LODID(2924)
```

このコマンドは、配布用にACCOUNTプロダクトの英語版をパッケージし、次の配布プロダクト項目を作成して、保管されたプロダクトを配布リポジトリに保管します。

```
I3IBM1 AS400 ACCOUNT V5R2M0 BASE LNG 2924 REF 001 V5R2M0
```

例4: 配布用のプロダクトのパッケージ化

PKGPRDDST PRDID(BILLS01) SAVF(*LIBL/BILLSAVF)

このコマンドは、コードと言語の両方の部分について、配布用のV5R2M0 BILLS01プロダクトをパッケージします。プロダクトを含む保管ファイルが指定されたために、プロダクトは保管されません。また、このコマンドは、次の配布カタログ項目を作成して、保管されたプロダクトを配布リポジトリに保管します。

I3IBM1 AS400 ACCOUNT V5R2M0 BASE ALL ALL REF 001 V5R2M0

[トップ](#)

エラー・メッセージ： PKGPRDDST

*ESCAPE メッセージ

CPF3D94

プロダクトが保管ファイル中に見つからなかった。

CPF37XX

保管 / 復元エラー・メッセージ

CPF3805

&2中の保管ファイル&1からのオブジェクトは復元されなかった。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF81XX

損傷オブジェクト・エラー・メッセージ

CPF98XX

共通エラー・メッセージ

MSS0123

内部処理エラーが起こった。

MSS0144

配布カタログ項目は検索されていない。

MSS020C

プロダクトと保管ファイルの情報が一致していない。

MSS020D

必要なオブジェクトが見つからないか、あるいは損傷がある。

MSS020F

必要なオブジェクトがロックされている。

MSS0210

操作の実行は認可されていない。

MSS0211

プロダクトはすでに配布用にパッケージ化されている。

MSS0212

配布用にプロダクトをパッケージ化することができなかった。

MSS022A

オブジェクト&2/&1が見つからなかった。

MSS022C

保管ファイル用のライブラリーにQTEMPを指定することはできない。

MSS0415

管理対象システムの属性が見つからないか、あるいは損傷している。

[トップ](#)

CCサーバー・クライアント除去 (RMVCCSCLT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

CCサーバー・クライアント除去(RMVCCSCLT)コマンドによって、CCサーバー・データベースに定義されているクライアントを除去することができます。アスタリスク(*),スラッシュ(/),および埋め込みブランクを使用することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLIENT	クライアント	文字値	必須, 定位置 1

[トップ](#)

クライアント (CLIENT)

CCサーバー・データベースのクライアントを指定します。

指定できる値は次の通りです。

クライアント名

除去するクライアントの名前を指定します。クライアントの名前の長さは最大63 桁までに行うことができます。データベースに存在しないクライアントの名前を指定すると、コマンドは拒否されます。

クライアントを定義するもう1つの代替方法は、自動ターゲット登録属性を使用する方法です。この属性は、CCサーバー属性変更(CHGCCSA)コマンドを使用して指定することができます。自動ターゲット登録の値により、クライアントは最初にCCサーバーに接続した時に自動的に定義され、ユーザーがクライアントを定義する必要はありません。

[トップ](#)

RMVCCSCLTの例

例1: CCSクライアントの除去

```
RMVCCSCLT CLIENT(CONNERY)
```

このコマンドは、クライアントCONNERYを除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RMVCCSCLT

*ESCAPE メッセージ

MSS0123

内部処理エラーが起こった。

MSS0A2F

クライアント名が見つからなかった。

MSS0A30

このクライアントの要求が保留中。

MSS0A40

変更制御クライアント名が正しくない。

MSS0A41

変更制御クライアント名を除去することができません。

MSS2109

変更制御クライアントが除去されていない。

[トップ](#)

DSTカタログ項目の除去 (RMVDSTCLGE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DSTカタログ項目の除去(RMVDSTCLGE)コマンドでは、ユーザーは、配布カタログから特定のカタログ項目を除去することができます。配布リポジトリに関連のデータ・オブジェクトが記憶されている場合には、そのリポジトリ・オブジェクトも削除されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
GLBNAME	グローバル名	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: グローバル名トークン1	文字値, *NETID, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 2: グローバル名トークン2	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 3: グローバル名トークン3	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 4: グローバル名トークン4	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 5: グローバル名トークン5	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 6: グローバル名トークン6	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 7: グローバル名トークン7	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 8: グローバル名トークン8	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 9: グローバル名トークン9	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 10: グローバル名トークン10	文字値, *ANY, *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	

[トップ](#)

グローバル名 (GLBNAME)

除去する固有のカタログ項目を見つけるために使用されるグローバル名のトークンを指定します。

これは必須パラメーターです。

トークン1として指定できる値は次の通りです。

***NETID**

最初のグローバル名トークン値は、ネットワーク属性からコマンドによって生成されたネットワークIDです。

***SERVER**

このトークンは変更要求活動内に&SERVERの値で記憶され、オブジェクトの配布時にCCサーバーの短縮名によって置き換えられます。

***TARGET**

このトークンは変更要求活動内に&TARGETの値で記憶され、オブジェクトの配布時にターゲットの短縮名によって置き換えられます。

***MDDATE**

このトークンは変更要求活動内に&DATEの値で記憶され、配布時にオブジェクトの最終変更日付によって置き換えられます。

***MDTIME**

このトークンは変更要求活動内に&TIMEの値で記憶され、配布時にオブジェクトの最終変更時刻によって置き換えられます。

グローバル名トークン

グローバル名の最初のトークンを指定してください。

トークン2から10として指定できる値は次の通りです。

***ANY** 対応するトークン値は無視されます。

***HIGHEST**

最高位の対応するトークン値をもつカタログ項目が選択されます。

***LOWEST**

最低位の対応するトークン値をもつカタログ項目が選択されます。

***NETID**

グローバル名トークンN値はネットワークIDです。この値はネットワーク属性から生成されます。

***CPNAME**

グローバル名トークン値は制御点名です。この値はネットワーク属性から生成されます。

***SERVER**

このトークンは変更要求活動内に&SERVERの値で記憶され、オブジェクトの配布時にCCサーバーの短縮名によって置き換えられます。

***TARGET**

このトークンは変更要求活動内に&TARGETの値で記憶され、オブジェクトの配布時にターゲットの短縮名によって置き換えられます。

***MDDATE**

このトークンは変更要求活動内に&DATEの値で記憶され、配布時にオブジェクトの最終変更日付によって置き換えられます。

***MDTIME**

このトークンは変更要求活動内に&TIMEの値で記憶され、配布時にオブジェクトの最終変更時刻によって置き換えられます。

グローバル名トークン

グローバル名のトークンを指定してください。

RMVDSTCLGEの例

例1: カタログ項目の除去

```
RMVDSTCLGE  GLBNAME(ABCCO *LOWEST *HIGHEST *ANY XYZ)
```

このコマンドは、カタログから項目を除去します。トークン1および5は、対応するカタログ項目トークンと一致しています。最低位の値のカタログ項目が2番目のトークン用を選択されます。最高位の値が3番目のトークン用を選択されます。トークン4は無視されます。検索の優先順位では、左から右にトークンが検索されます。

例2: カタログ項目の除去

```
RMVDSTCLGE  GLBNAME(CMPNY1 *SERVER *TARGET *MDDATE *MDTIME)
```

このコマンドはグローバル名CMPNY1 &SERVER &TARGET &DATE &TIMEの項目を除去します。

トップ

エラー・メッセージ: RMVDSTCLGE

*ESCAPE メッセージ

MSS0066

内部的な処理エラーが起こった。

MSS0111

配布リポジトリ・オブジェクトが使用可能でない。

MSS0112

配布リポジトリが使用可能でない。

MSS0113

配布リポジトリは認可されていない。

MSS0116

グローバル名の最大長を超えた。

MSS0117

グローバル名トークン&3が正しくない。理由コードは&4です。

MSS011B

配布カタログ項目が見つからない。

MSS011C

配布カタログが使用可能でない。

MSS011D

複数の配布カタログ項目が見つかった。

MSS0121

配布リポジトリが見つからない。

MSS0122

配布リポジトリに損傷がある。

MSS0123

内部処理エラーが起こった。

MSS0124

配布カタログの管理時にエラー。

MSS0125

配布カタログが損傷している。

MSS0173

リポジトリ・オブジェクトの削除は認可されていない。

MSS0174

配布カタログ項目は除去されていません。

MSS0176

配布カタログ項目は除去されていません。

MSS0904

グローバル名のトークン数が正しくない。

MSS0905

グローバル名にトークン&2が正しくない。

MSS0906

グローバル名に複数の日付または時刻トークンが入っている。

[トップ](#)

分散管理の開始 (STRMGDSYS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

分散管理開始(STRMGDSYS)コマンドは、オブジェクトの受け取り、プログラムの実行、コマンドの実行、プログラム一時修正(PTF)の適用などの分散管理機能を実行するジョブを開始します。

制約事項:

1. この開始コマンドを使用するためには、ユーザーは*JOBCTL権限を必要とします。
2. 分散管理が完全に操作可能になるためには、QSNADSサブシステムを開始しなければなりません。

このコマンドにはパラメーターがありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

STRMGDSYSの例

STRMGDSYS

このコマンドは、管理対象のシステム機能を開始します。この後、中央側システムから受信した要求を処理できます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: STRMGDSYS

***ESCAPE** メッセージ

CPF90FF

要求された操作を実行するためには、*JOBCTL特殊権限が必要である。

MSS0059

内部オブジェクトが見つからないか、あるいは損傷している。

MSS005B

記憶域限界を超えた。

MSS0064

内部オブジェクトが見つからないか、あるいは損傷している。

MSS0066

内部的な処理エラーが起こった。

MSS0067

内部オブジェクトを割り振ることができない。

MSS0312

分散管理/400はすでに活動状態になっている。

MSS0313

分散管理/400が開始されません。

[トップ](#)

管理機能サービスの開始 (STRMGRSRV)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

管理機能サービスの開始(STRMGRSRV)コマンドは、中央側システムで必要なサービスを開始します。

制約事項:

1. 開始コマンドを使用するためには、*JOBCTL権限が必要です。
2. このコマンドの共通認可は*EXCLUDEです。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SERVICE	開始するサービス	単一値: *ALL その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *RMTCMD, *TOPOLOGY	オプション、定位置 1

[トップ](#)

開始するサービス (SERVICE)

開始するサービスを指定します。1つまたは複数の値を入力することができます。

***ALL** すべての管理機能サービスの開始を指定します。

***TOPOLOGY**

ネットワーク内のノードおよびクライアントからトポロジー情報を収集することを指定します。

***RMTCMD**

管理下のシステムにリモート・コマンドの送信が可能になることを指定します。

[トップ](#)

STRMGRSRVの例

```
STRMGRSRV SERVICE(*ALL)
```

このコマンドは、中央側システムのすべてのサービスを開始します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRMGRSRV

*ESCAPE メッセージ

MSS0601

要求された操作には*JOBCTL特殊権限が必要である。

MSS0604

サブシステムQSYSWRKが活動状態になっていない。

MSS0730

&1コマンドでエラーが見つかった。

[トップ](#)

DSTカタログ項目の処理 (WRKDSTCLGE)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DSTカタログ項目処理(WRKDSTCLGE)コマンドでは、ユーザーは配布カタログ項目の追加、除去、表示および配布リポジトリ・オブジェクトのコピーを行うことができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
GLBNAME	グローバル名	要素リスト	オプションナル、位置 1
	要素 1: グローバル名トークン1	文字値, *ANY , *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 2: グローバル名トークン2	文字値, *ANY , *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 3: グローバル名トークン3	文字値, *ANY , *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 4: グローバル名トークン4	文字値, *ANY , *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 5: グローバル名トークン5	文字値, *ANY , *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 6: グローバル名トークン6	文字値, *ANY , *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 7: グローバル名トークン7	文字値, *ANY , *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 8: グローバル名トークン8	文字値, *ANY , *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 9: グローバル名トークン9	文字値, *ANY , *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	
	要素 10: グローバル名トークン10	文字値, *ANY , *HIGHEST, *LOWEST, *NETID, *CPNAME, *SERVER, *TARGET, *MDDATE, *MDTIME	

[トップ](#)

グローバル名トークン1 (GLBNAME)

表示するカタログ項目を見つけるために使用されるグローバル名のトークンを指定します。

トークン1として指定できる値は次の通りです。

***ANY** 対応するトークン値は無視されます。

***HIGHEST**

最高位の対応するトークン値をもつカタログ項目が選択されます。

***LOWEST**

最低位の対応するトークン値をもつカタログ項目が選択されます。

***NETID**

最初のグローバル名トークン値は、ネットワーク属性からコマンドによって生成されたネットワークIDです。

***SERVER**

このトークンは変更要求活動内に&SERVERの値で記憶され、オブジェクトの配布時にCCサーバーの短縮名によって置き換えられます。

***TARGET**

このトークンは変更要求活動内に&TARGETの値で記憶され、オブジェクトの配布時にターゲットの短縮名によって置き換えられます。

***MDDATE**

このトークンは変更要求活動内に&DATEの値で記憶され、配布時にオブジェクトの最終変更日付によって置き換えられます。

***MDTIME**

このトークンは変更要求活動内に&TIMEの値で記憶され、配布時にオブジェクトの最終変更時刻によって置き換えられます。

グローバル名トークン

グローバル名の最初のトークンを指定してください。

トークン2から10として指定できる値は次の通りです。

***ANY** 対応するトークン値は無視されます。

***HIGHEST**

最高位の対応するトークン値をもつカタログ項目が選択されます。

***LOWEST**

最低位の対応するトークン値をもつカタログ項目が選択されます。

***NETID**

グローバル名トークンN値はネットワークIDです。この値はネットワーク属性から生成されます。

***CPNAME**

グローバル名トークン値は制御点名です。この値はネットワーク属性から生成されます。

***SERVER**

このトークンは変更要求活動内に&SERVERの値で記憶され、オブジェクトの配布時にCCサーバーの短縮名によって置き換えられます。

***TARGET**

このトークンは変更要求活動内に&TARGETの値で記憶され、オブジェクトの配布時にターゲットの短縮名によって置き換えられます。

***MDDATE**

このトークンは変更要求活動内に&DATEの値で記憶され、配布時にオブジェクトの最終変更日付によって置き換えられます。

*MDTIME

このトークンは変更要求活動内に&TIMEの値で記憶され、配布時にオブジェクトの最終変更時刻によって置き換えられます。

グローバル名トークン

グローバル名のトークンを指定してください。

[トップ](#)

WRKDSTCLGEの例

例1: すべての項目の処理

```
WRKDSTCLGE
```

このコマンドによって、ユーザーはすべてのカタログ項目を処理することができます。

例2: 特定の項目の処理

```
WRKDSTCLGE  GLBNAME(ABACO *HIGHEST *HIGHEST XYZ)
```

このコマンドによって、ユーザーは特定のカタログ項目を処理することができます。

例3: 特定の項目の処理

```
WRKDSTCLGE  GLBNAME(ABACO ZONEA *ANY)
```

このコマンドによって、ユーザーは3つのトークン・グローバル名のすべてのカタログ項目を処理できます。この場合、最初のトークンはABACOであり、2番目のトークンはZONEAです。

例4: 特殊なトークンをもつカタログ項目の処理

```
WRKDSTCLGE  GLBNAME(CMPNY1 *SERVER *TARGET *MDDATE *MDTIME)
```

このコマンドによってユーザーは、グローバル名CMPNY1 &SERVER &TARGET &DATE &TIMEのカタログ項目を処理することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: WRKDSTCLGE

*ESCAPE メッセージ

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

MSS0116

グローバル名の最大長を超えた。

MSS0117

グローバル名トークン&3が正しくない。理由コードは&4です。

MSS011B

配布カタログ項目が見つからない。

MSS011C

配布カタログが使用可能でない。

MSS0123

内部処理エラーが起こった。

MSS0124

配布カタログの管理時にエラー。

MSS0125

配布カタログが損傷している。

MSS0909

変更制御サーバー・データベースのアクセス中にエラー。

[トップ](#)

受信したCRQ活動の処理 (WRKRCVCRQA)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

受信したCRQ活動の処理(WRKRCVCRQA)コマンドによって、管理下のシステムのユーザーはシステムによって受け取られた活動のリストを処理することができます。ユーザーは処理中でない活動の保留、解放、または終了、現在処理中の活動の終了、あるいは特定の活動に使用可能な情報の表示を行うことができます。

要求がローカル接続のCCクライアントに送られると、単一のSNA配布リストがそれらのクライアントと関連づけられます。このSNAリストにはCCクライアントの宛先が入っています。

CCクライアントの要求を受け取るAS/400システムは実際に転送を行い、CCサーバー・エージェントに送られた要求の処理は行いません。エージェントが活動を処理します。CCクライアントの配布を表示することはできますが、それらを制御（保留、終了、解除）することはできません。

制約事項:

- 活動を保留、終了、または解放するためには、コマンドを処理するために使用されるユーザー・プロファイルが*JOBCTL権限をもっているか、あるいは活動の実行時に使用されるユーザー・プロファイルと同じでなければなりません。
- このコマンドは、別のシステムから受け取られた活動にのみ適用されます。
- 保留、終了、および解除操作では、ローカル分散管理エージェントに対して受け取った配布だけが処理されます。CCクライアントに対して受け取った配布は処理されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ORIGIN	起点	値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *ALL , *NETATR	
	要素 2: 制御点名	通信名, *ALL , *NETATR	
STATUS	状況	単一値: *ALL その他の値 (最大 5 回の繰り返し): *ENDED, *HELD, *READY, *RUN, *SCHED	オプション
RCVTIME	受信時刻	要素リスト	オプション
	要素 1:	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, *AVAIL	
	要素 2: 開始日	日付, *BEGIN , *CURRENT	
	要素 2:	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, *AVAIL	
	要素 2: 終了日	日付, *END , *CURRENT	

トップ

起点 (ORIGIN)

中央側システムのネットワークIDおよび制御点名を指定します。このシステムから受け取られた活動のみが表示されます。

このパラメーターには複数個の値を入力することができます。

ネットワークIDとして指定できる値は次の通りです。

***ALL** ユーザーは、指定された制御点名をもつどのネットワークから受け取られた活動でも処理することができます。

*NETATR

中央側システムは、ローカルAPPNネットワークにあります。

ネットワークID

活動を送ってきた中央側システムのAPPNネットワーク名を指定してください。

制御点名として指定できる値は次の通りです。

***ALL** ユーザーは、指定されたネットワーク中のどのノードから受け取られた活動でも処理することができます。

*NETATR

中央側システムはローカル制御点名内にあります。

制御点名

活動を送ってきた中央側システムのAPPN制御点の名前を指定してください。

[トップ](#)

状況 (STATUS)

表示される活動の現在の状況を指定します。

このパラメーターには複数個の値を入力することができます。

***ALL** ユーザーは、指定された中央側から受け取られたどの活動でも処理することができます。

*ENDED

ユーザーは、完了した（終了した）活動を処理することができます。

*HELD

ユーザーは、保留中の活動を処理することができます。

*READY

ユーザーは、受け取られ、活動状態になっていて、処理を待機している活動を処理することができます。

***RUN** ユーザーは、現在処理中の活動を処理することができます。

*SCHED

ユーザーは、スケジュール済みの活動を処理することができます。

[トップ](#)

受信時刻 (RCVTIME)

活動が受け取られる時間間隔を指定します。この時間間隔内に受け取られた活動だけが表示されます。

開始時刻として指定できる値は次の通りです。

***AVAIL**

時間間隔は、指定した日付の受け取られた最初の使用可能な活動から始まります。

開始時刻

時刻を指定してください。指定された日付のこの時刻以降に受け取られた活動がリストに含まれます。

開始日として指定できる値は次の通りです。

***BEGIN**

時間間隔は、受け取られた最初に使用可能な活動から始まります。

***CURRENT**

時間間隔は、当日または以降に受け取られた活動から始まります。

開始日 受け取られた活動の時間間隔が始まる日付を指定してください。

終了時刻として指定できる値は次の通りです。

***AVAIL**

時間間隔は、指定した日付で最後に受け取られた活動で終わります。

終了時刻

時刻を指定してください。その時刻以前に受け取られた活動がリストに含まれます。

終了日として指定できる値は次の通りです。

***END** 時間間隔は最後に受け取られた活動で終わります。

***CURRENT**

時間間隔は、当日またはそれ以前に受け取られた活動で終わります。

終了日 日付を指定してください。その日付またはそれ以前に受け取られた活動がリストに含まれます。

[トップ](#)

WRKRCVCRQAの例

例1: すべての活動の処理

```
WRKRCVCRQA
```

このコマンドによってユーザーは、どのシステムから受信した活動でもすべて処理することができます。

例2: 保留された活動の処理

```
WRKRCVCRQA  ORIGIN((RPC *ALL))  STATUS(*HLD)
```

このコマンドによってユーザーは、RPCネットワークの中央側システムから受信し、現在保留になっている活動を処理することができます。

例3: スケジュールされた活動の処理

```
WRKRCVCRQA  ORIGIN((RPC CPNAME))  STATUS(*SCHED)
              RCVTIME((*AVAIL *CURRENT) (*AVAIL *CURRENT))
```

このコマンドによってユーザーは、ネットワークRPCで制御点名CPNAMEをもつ中央側システムから、今日の任意の時間に受信し、これより後の日付または時間に実行がスケジュールされた活動を処理することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKRCVCRQA

*ESCAPE メッセージ

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

MSS0013

要求の実行中にエラーが起こった。

MSS0055

終了の日付と時刻が開始の日付と時刻より前になっている。

MSS0059

内部オブジェクトが見つからないか、あるいは損傷している。

MSS005B

記憶域限界を超えた。

MSS0066

内部的な処理エラーが起こった。

MSS0067

内部オブジェクトを割り振ることができない。

[トップ](#)

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。

使用許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Advanced Function Printing

AFP

AS/400

CICS

COBOL/400

C/400

DataPropagator

DB2

IBM

Infoprint

InfoWindow

iSeries

LPDA

OfficeVision

OS/400
Print Services Facility
RPG/400
SystemView
System/36
TCS
WebSphere

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

資料に関するご使用条件

お客様がダウンロードされる資料につきましては、以下の条件にお客様が同意されることを条件にその使用が認められます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

これらの資料の著作権はすべて、IBM Corporation に帰属しています。

お客様が、このサイトから資料をダウンロードまたは印刷することにより、これらの条件に同意されたものとさせていただきます。

コードに関する特記事項

本書には、プログラミングの例が含まれています。

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

すべてのサンプル・コードは、例として示す目的でのみ、IBM により提供されます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

ここに含まれるすべてのプログラムは、現存するままの状態を提供され、いかなる保証も適用されません。商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任の保証の適用も一切ありません。



Printed in Japan